

村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ委託セシムルコト

郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモ其ノ町村ノ尋常小學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラスト認メタルトキハ亦前項ノ例ニ依ルヘシ

郡長ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前項ニ準スヘキ事情アリト認メタルトキハ第一項第二號ノ例ニ準スヘシ

第九條 市立尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事ニ於テ市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

町村立尋常小學校ノ校數並位置ハ郡長ニ於テ町村又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 第七條又ハ第八條ニ依リ郡長ニ於テ町村學校組合ヲ設ケシメ若ハ其ノ組合ヲ解カシメムトスルトキハ關係町村ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第八條ニ依リ郡長ニ於テ兒童教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメ

ムトスルトキハ關係町村、町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ市内ノ一區若ハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分畫シテ數區ト爲シ其ノ一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ノ爲其ノ使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同

シ
郡長ハ町村若ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所數箇所アルトキ又ハ其ノ設置スヘキ尋常小學校ト兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所トアルトキハ町村内若ハ町村學校組合内ノ一區若ハ數區ニ對シ又ハ町村若ハ町村學校組合ヲ分畫シテ數區ト爲シ其ノ一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童教育事務委託ノ爲其ノ使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係町村、

第七類 小學校令

町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同シ

四十四

第十二條 府縣知事ハ第七條及第八條第一項ノ事情アルモ同條及第五十三條並第五十四條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

府縣知事ハ第八條第二項又ハ第三項ノ事情アルモ同項及第五十三條並第五十四條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村若ハ町村學校組合ヲシテ其ノ一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

第十三條 府縣知事ハ特別ノ事情ニ依リ市立尋常小學校ノ設置又ハ其ノ一部ノ設備ヲ猶豫シ市内ノ私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ特別ノ事情ニ依リ町村立尋常小學校ノ設置若ハ其ノ一部ノ設備又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ猶豫シ町村若ハ町村學校組合内ノ私立小學校ヲ以テ之ニ

代用セシムルコトヲ得

私立小學校代用ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 市町村ハ市町村又ハ其ノ區ノ負擔ヲ以テ高等小學校ヲ設置スルコト

ヲ得

町村ハ數町村ノ協議ニ依リ町村學校組合ヲ設ケ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ町村學校組合ヲ設ケ又ハ之ヲ解カムトスルトキハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十五條 市町村立高等小學校ノ設置及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 私立小學校ノ設置ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ其ノ廢止ハ之ヲ府縣知事ニ届出ツヘシ

第十七條 前三條ノ規定ハ幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニ第七類 小學校令

四十五

關シ之ヲ準用ス

幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ハ之ヲ小學校ニ附設スルコトヲ得

第三章 教科及編制

第十八條 尋常小學校ノ修業年限ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年、三箇年又ハ四箇年トス

第十九條 尋常小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、體操トス
土地ノ情況ニ依リ圖畫、唱歌、手工ノ一科目又ハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二十條 高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ（三十六年勅令第六十三號ヲ以テ條中改正）

修業年限二箇年ノ高等小學校ニ於テハ理科、唱歌ノ一科目若ハ二科目ヲ闕キ又ハ手工ヲ加フルコトヲ得

修業年限三箇年以上ノ高等小學校ニ於テハ男兒ノ爲ニ手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目ヲ加フ但シ數科目ヲ加フル場合ニ於テハ兒童ニハ其ノ一科目ヲ學習セシム

修業年限三箇年以上ノ高等小學校ニ於テハ唱歌ヲ闕キ又ハ女兒ノ爲ニ手工ヲ加フルコトヲ得

修業年限四箇年ノ高等小學校ニ於テハ英語ヲ加フルコトヲ得

前四項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二十一條 小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

補習科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十二條 小學校ノ教科目中兒童身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ其ノ兒童ニ課セサルコトヲ得

第七類 小學校令

第二十三條 小學校ノ教科目ヲ加除シ若ハ隨意科目ト爲シ又ハ第二十條第三項ノ教科目ヲ定メムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ(同上)

補習科ヲ設置シ若ハ之ヲ廢止シ又ハ高等小學校ノ修業年限ヲ定メムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村若ハ町村學校組合、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタルヘシ(二十六年勅令第七十四號ヲ以テ條中改正)

前項ノ圖書同一ノ教科目ニ關シ數種アルトキハ其ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ採定ス

文部大臣ハ第一項ノ規定ニ拘ラス修身、日本歴史、地理ノ教科用圖書及國語讀本ヲ除キ其ノ他ノ教科用圖書ニ限リ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ府縣知事ヲシテ之ヲ採定セシムルコトヲ得

補習科ノ教科用圖書ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 (同上ヲ以テ削除)

第二十六條 (同上)

第二十七條 小學校ノ休業日ハ日曜日ヲ除クノ外毎年九十日ヲ超ユルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ日數ヲ増加スルコトヲ得

傳染病豫防ノ爲必要アルトキ其ノ他非常變災アルトキハ監督官廳ニ於テ臨時小學校ノ閉鎖ヲ命スヘシ其ノ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ之ヲ閉鎖スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ直ニ監督官廳ニ届出ツヘシ

第二十八條 小學校教則及小學校編制ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四章 設備

第七類 小學校令

第二十九條 小學校ニ於テハ校舍、校地、校具及體操場ヲ備フヘシ

第三十條 校舍、校地、校具及體操場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事情ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 小學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第五章 就學

第三十二條 兒童滿六歳ニ達シタル翌日ヨリ滿十四歳ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス(三十六年勅令第六十三號ヲ以テ條中改正)

學齡兒童ノ學齡ニ達シタル日以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期トシ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキヲ以テ就學ノ終期トス

學齡兒童保護者ハ就學ノ始期ヨリ其ノ終期ニ至ル迄學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ

學齡兒童保護者ト稱スルハ學齡兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ親權ヲ行フ者ナキトキハ其ノ後見人ヲ謂フ

第三十三條 學齡兒童瘋癲白痴又ハ不具癱疾ノ爲就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

學齡兒童病弱又ハ發育不完全ノ爲就學セシムヘキ時期ニ於テ就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得

市町村長ニ於テ學齡兒童保護者貧窮ノ爲其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認メタルトキ亦前二項ニ準ス

第三十四條 第十二條ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免セラレタル區域内ノ學齡兒童保護者ハ其ノ義務ヲ免除セラレタルモノトス

第七類 小學校令

第三十五條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇備スル者ハ其ノ雇備ニ依リテ兒童ノ就學ヲ妨クルコトヲ得ス

第三十六條 學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ入學セシムヘシ但シ市町村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルコトヲ得

官立又ハ府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ハ兒童就學ニ關シテハ市町村立尋常小學校ト同視ス

第三十七條 兒童ノ年齢就學ノ初期ニ達セサル者ハ之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ス

第三十八條 小學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認めタル兒童ノ小學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

第六章 職員

第三十九條 小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目ハ中圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、商業又ハ手工ノ一科目若ハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教員トス

本科正教員ヲ補助スル者ヲ准教員トス

第四十條 小學校教員タルヘキ者ハ免許狀ヲ受クヘシ

免許狀ハ普通免許狀及府縣免許狀ノ二種トス

普通免許狀ハ文部大臣之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

府縣免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ其ノ府縣限リ有效トス

第四十一條 府縣免許狀ヲ受クルニハ師範學校若ハ文部大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業シ又ハ小學校教員ノ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ檢定ヲ施行スルカ爲府縣ニ小學校教員檢定委員會ヲ置ク

免許狀及小學校教員檢定委員會ノ組織權限其ノ他檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七類 小學校令

第四十二條 特別ノ事情アルトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ小學校准教員ニ
代用スルコトヲ得

代用教員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十三條 市町村立小學校長ハ其ノ學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼テシムヘ
シ

第四十四條 市立小校長及教員ノ任用ハ市長ノ申請ニ依リ町村立小學校長及教
員ノ任用ハ郡長ノ申請ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第四十五條 市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與並其ノ支給方法ハ文
部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第四十六條 小學校長及教員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ
定ム

第四十七條 小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フ

ルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第四十八條 市町村立小學校長及教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタ
ルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハズ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ府縣知
事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ニ準スヘキ所爲アリタルトキハ府縣知事ハ其
ノ業務ヲ停止ス

第四十九條 小學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免
許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 信用若ハ風俗ヲ害スルノ罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セ
ラレタルトキ
- 三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

小學校教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スル

第七類 小學校令

ノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認メタルトキハ文部大臣又ハ府縣知事ニ於テ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第五十條 府縣知事ニ於テ行ヒタル免職若ハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七章 費用負擔及授業料

第五十一條 市町村立小學校ノ設置ニ關スル費用ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ負擔トス其ノ概目左ノ如シ

- 一 設備及其ノ維持ノ費用
- 二 職員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與
- 三 校費

兒童教育事務委託ニ關スル費用ハ町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ負擔トス
第五十二條 郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所アルトキハ其ノ學校組合内ノ某町村ヲシ

テ其ノ數校中ノ一校若ハ數校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ止メトスルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 郡長ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ郡長ハ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

- 一 町村ニシテ第七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得サルトキ
- 二 町村學校組合ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其ノ學校組合費ノ分擔ニ堪ヘサルトキ
- 三 町村又ハ町村學校組合ノ資力兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

前項ノ認定ニ付テハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第七類 小學校令

シ

第五十四條 府縣知事ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキ

ハ府縣ハ郡又ハ市ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

一 郡ノ資力第五十三條ノ補助ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

二 市ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

前項ノ認定ニ付テハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受

クヘシ

第五十五條 區長及其ノ代理者並學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲

ニ要スル費用ハ市町村又ハ町村學校組合ノ負擔トス但シ區長及其ノ代理者並

區ノ學務委員ニ關スル費用ハ市町村會又ハ町村學校組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ

區ノ負擔ト爲スコトヲ得

第五十六條 小學校教員檢定及府縣免許狀ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス(三

十六年勅令第七十四號ヲ以テ條中改正)

第五十七條 市町村立尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス但シ補

習科ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ市町村立尋常小學校ニ於テ授業

料ヲ徵收スルコトヲ得

第五十八條 市町村立小學校ノ授業料ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區、收

入トス

第五十九條 授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八章 管理及監督

第六十條 市町村長又ハ町村學校組合長ハ市町村又ハ町村學校組合ニ屬スル國

ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス

第六十一條 府縣知事ハ市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ヲシテ市

町村長又ハ町村學校組合長ノ指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補

助執行セシムルコトヲ得

第七類 小學校令

第六十二條 市町村ハ教育事務ノ爲市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ學

務委員ヲ置クヘシ但シ市會町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

市町村又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ其ノ區ニ學務委員

ヲ置クコトヲ得

學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加フヘシ

委員中教員ヨリ出ツル者ハ市町村長又ハ町村學校組合長之ヲ任免ス

第六十三條 學務委員ノ職務其ノ他學務委員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十四條 市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモ

ノニ就キテハ市制第二百二十四條町村制第二百二十八條ノ規定ニ依ル

第六十五條 市立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ府縣知事之ヲ監督

シ町村立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ郡長之ヲ監督ス

第六十六條 私立小學校ニシテ市内ニ在ルモノハ府縣知事之ヲ監督シ町村内ニ

在ルモノハ郡長之ヲ監督ス

第九章 附則

第六十七條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ小學校ノ教科目

並教則及授業料ノ徵收ニ關シテハ明治三十四年三月三十一日ニ至ル迄仍從前

ノ例ニ依ル

第六十八條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル地ニ之ヲ施行ス

第六十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三十三條ニ依リ設ケタ

ル町村學校組合ハ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄之ヲ存續スルコトヲ

得

第七十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條及第四條ニ依リ小學

校ニ於テ加設シタル教科目中本令ノ規定ニ牴觸スルモノ又ハ同令第六條ニ依

リ高等小學校ニ於テ專修科ヲ置キタルモノハ明治三十三年九月一日ニ於テ現

ニ學習スル兒童ノ卒業スルニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第七類 小學校令

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條ニ依リ體操科ヲ闕ケル尋常小學校ニ於テハ明治三十六年三月三十一日迄仍 前ノ例ニ依ルコトヲ得

第七十條ノ二 第二十條第三項ノ教科目ハ當分ノ内之ヲ闕クコトヲ得(三十六年勅令第六十三號ヲ以テ追加)

第七十一條 既設ノ尋常小學校ニシテ體操場ノ設備ナキモノハ明治三十八年三月三十一日迄其ノ設備ヲ猶豫ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ猶豫ノ期間内體操科ヲ闕クコトヲ得

第七十二條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス但シ小學校專科准教員ノ免許狀ハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 明治二十六年勅令第四百四號及明治三十年勅令第三百十六號ハ之ヲ廢止ス

明治二十六年勅令第三十四號及明治三十年勅令第四百七號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス

(參照)

小學校令施行規則(三十三年八月二十一日文部省令第十四號)

●市町村立小學校教育費國庫補助法

(明治三十三年三月十五日法律第六十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル市町村立小學校教育費國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教育費國庫補助法

第一條 市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

第二條 前條ノ補助金ハ市町村立小學校教員ノ年功加俸及市町村立尋常小學校教員ノ特別加俸ニ充ツ其ノ加俸ニ關スル方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 第一條ノ補助金ハ學齡兒童數及就學兒童數ノ和ニ比例シテ之ヲ北海道第七類 市町村立小學校教育費國庫補助法 六十三

廳及七府縣ニ配賦ス

北海道廳及沖繩縣ノ配賦金ハ文部大臣之ヲ管理シ其ノ他ハ之ヲ府縣ニ下付ス
ヘシ

附則

第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助法ハ
之ヲ廢止ス

第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ年功
加俸ヲ受クル者ニハ同一學校ニ勤續スル間仍其ノ加俸ニ相當スル金額ヲ支給
ス但シ本法ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス
前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス

●市町村立小學校教育費國庫補助法ニ依ル學齡兒

童數及就學兒童數調査方ノ件

(明治三十五年三月二十九日
文部省令第七號)

市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第一項ノ學齡兒童數及就學兒童數ハ補
助金ヲ配賦スヘキ年ノ前年三月ニ於ケル現在數ニ依ルモノトス
明治三十三年文部省令第八號ハ廢止ス

●小學校教育效績狀規程

(明治三十八年六月二十一日
文部省令第十一號)

小學校教育效績狀規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教育效績狀規程

第一條 小學校教員ニシテ其ノ效績顯著ナル者ハ文部大臣之ヲ選獎ス

第七類

市町村立小學校教育費國庫補助法ニ依ル 六十五
學齡兒童數及就學兒童數調査方ノ件 小
學校教育效績狀規程

市町村長、町村學校組合長其ノ他市町村若ハ之ニ準スヘキモノノ吏員又ハ學務委員ニシテ小學校ノ教育ニ關シ成績顯著ナル者ハ亦之ヲ選奨スルコトアルヘシ

第二條 前條ノ選奨ハ教育成績狀ヲ授與シテ之ヲ行ヒ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第三條 小學校教員ニシテ小學校令第四十九條ニ依リ其ノ有スル免許狀效力ヲ失ヒ若ハ免許狀ヲ褫奪セラレタルトキハ教育成績狀ヲ返納セシメ官報ヲ以テ之ヲ公示ス其ノ他ノ者ニシテ公權ヲ剝奪セラレタルトキ亦同シ

第四條 第一條ノ成績ヲ審査スル爲文部省内ニ委員ヲ置ク

●師範教育

●師範教育令

(明治三十年十月六日 勅令第三百四十六號)

朕師範教育令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師範教育令

第一條 高等師範學校ハ師範學校尋常中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

女子高等師範學校ハ師範學校ノ女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
前三項ニ記載シタル學校ニ於テハ順良信愛威重ノ徳性ヲ涵養スルコトヲ務ムヘシ

第二條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範學校ハ北海道及各府縣ニ各一校若ハ數校ヲ設置ス

第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス

第四條 師範學校ノ經費(北海道及沖繩縣ヲ除ク)ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔
第七類 師範教育令

トス

第五條 師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務

ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 高等師範學校女子高學師範學校及師範學校生徒ノ學資ハ文部大臣ノ定

ムル所ニ依リ其ノ學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

前項ノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ私費生ヲ置クコトヲ得

第八條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其ノ程度並教科書

ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條 師範學校ニ豫備科小學校教員講習科及幼稚園保姆講習科ヲ置クコトヲ

得

附則

第十條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十一條 他ノ法令中尋常師範學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然師範學校ト

改正セラレタルモノト看做ス

●實業教育

●實業學校令

(明治三十二年二月六日 勅令第二十九號)

朕實業學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實業學校令

第一條 實業學校ハ工業農業商業ノ實業ニ從事スル者ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ

以テ目的トス

第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校農業學校商船學校及實業補習學校トス

蠶業學校山林學校獸醫學校及水産學校等ハ農業學校ト看做ス

第七類 實業學校令

徒弟學校ハ工業學校ノ種類トス

第二條ノ二 實業學校ニシテ高等ノ教育ヲ爲スモノヲ實業專門學校トス實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル(三十六年勅令第六十二號ヲ以テ追加)

第三條 北海道及府縣ニ於テハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得但シ道府縣立實業補習學校ハ他ノ道廳府縣立學校ニ附設スル場合ニ限ル(同上ヲ以テ條中改正)

文部大臣ハ土地ノ情況ニ應シ必要ナル實業學校ノ設置ヲ北海道又ハ府縣ニ命スルコトヲ得

第四條 (同上ヲ以テ削除)

第五條 郡市町村北海道沖繩縣ノ區、北海道一級町村二級町村、沖繩縣間切島又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得(同上)

市町村又ハ町村學校組合ハ前項ニ依リ實業學校ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲區ヲ設ケルコトヲ得(三十五年勅令第三百三十二號ヲ以テ本項追加)

第五條ノ二 商業會議所ハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得(三十六年勅令第六十二號ヲ以テ追加)

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 公立又ハ私立ノ工業學校農業學校商業學校船舶學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ公立又ハ私立ノ實業補習學校ノ設置廢止ハ道府縣立ニ係ルモノヲ除クノ外地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ(同上ヲ以テ條中改正)

公立又ハ私立ノ實業學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 實業學校ノ修業年限、學科學科目及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(同上)

第九條 實業學校ノ教科書ハ公立學校ニ在リテハ學校長ニ於テ私立學校ニ在リテハ私立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第七類 實業學校令

七十二

第十條 公立又ハ私立ノ實業學校教員ノ資格ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
(同上)

第十一條 公立實業學校職員ノ旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認
可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム(同上)

第十二條 公立實業補習學校職員ノ名稱待遇ハ公立小學校ノ例ニ依ル

第十三條 公立又ハ私立ノ實業學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ
定ム(同上)

第十四條 實業學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第十五條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第十六條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十七條 (同上ヲ以テ削除)

第十八條 他ノ法令中ニ技藝學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然實業學校ト看

做ス

第十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令中徒弟學校及實業補習學校
ニ關スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

●實業學校設置廢止規則

(明治三十一年三月三日
文部省令第十二號)

明治三十二年勅令第二十九號實業學校令第七條ニ基キ實業學校設置廢止規則ヲ
定ムルコト左ノ知シ

實業學校設置廢止規則

第一條 工業學校農業學校商業學校及商船學校ヲ設置セントスルトキハ公立學
校ニ在リテハ其管理者ニ於テ私立學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ
具シ文部大臣ニ稟申スヘシ但實業學校令第三條ニ依リ設置スル場合ニハ第九
號ノ事項ヲ具スルコトヲ要セス(三十六年文部省令第五號第十五號ヲ以テ條
中改正)

第七類 實業學校設置廢止規則

- 一 名稱
- 二 位置
- 三 學則
- 四 生徒定員
- 五 開校年月
- 六 敷地建物ノ圖面(坪數地質附近ノ情況ヲ記載シタルモノ)並ニ其所有ノ區別
- 七 收入支出豫算表
- 八 職員數及俸給額ノ豫定
- 九 設置區域内ニ於ケル當該實業ノ情況
- 十 設立者ノ履歷法人又ハ組合ノ設立ニ係ルモノハ其定款、寄附行爲又ハ組合契約及ヒ其沿革但定款又ハ寄附行爲ニシテ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ添付ヲ要セス

前項第一號乃至第五號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十號ノ變更ハ文部大臣ニ開申シ第六號ノ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申シ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲナシタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ

第二條 (二十六年文部省令第十五號ヲ以テ削除)

第三條 地方長官ニ於テ實業補習學校ヲ道府縣立學校ニ附設シタルトキ又ハ其ノ設置ヲ認可シタルトキハ名稱、位置、教科目、(必須科目ト隨意科目トノ別ヲ明記スヘシ)、各教科目ノ每週教授時數、教授季節、修業期間、生徒ノ入學資格ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ其ノ變更ノ場合又同シ但シ國庫ノ補助ヲ受クル學校ニ關シテハ此限ニアラス(同上ヲ以テ改正)

第四條 第一條ノ學校ヲ廢止セントスルトキハ其事由並ニ生徒ノ處分方法ヲ具シテ文部大臣ニ稟申スヘシ

第七類 實業學校設置廢止規則

第五條 地方長官ニ於テ實業補習學校ヲ廢止シタルトキ又ハ其廢止ヲ認可シタルトキハ其旨文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 道廳府縣立ニアラサル實業學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ但其設置廢止ノ稟申ニ關シテハ地方長官ハ其意見ヲ具スヘシ

附則

第七條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

●實業教育費國庫補助法

(明治二十七年六月十一日法律第二十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル實業教育費國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實業教育費國庫補助法

第一條 實業教育ヲ獎勵スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

(三十四年法律第一號ヲ以テ改正)

第二條 公立ノ工業農業商業商船學校、徒弟學校及實業補習學校ニシテ實業ノ教育ニ效益アリト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ學校ニ補助金ヲ交付スヘシ

(三十一年法律第十八號ヲ以テ條中改正)

監督官廳ノ認可ヲ經タル農工商組合ニ於テ設立シタル實業學校ハ文部大臣ノ特別ノ認定ニ依リ前項ニ準スルコトヲ得

第三條 各學校ニ交付スル補助金ハ其ノ設立者ノ負擔額ト同額以內ニ限ル

第四條 補助ヲ受クヘキ學校ハ文部大臣ノ認可シタル學則ニ依リ及同大臣ノ定ムル必要ノ條件ヲ充タスモノニ限ル

第五條 此ノ法律ニ依リ補助ヲ受クル學校ノ設立者ハ補助年期間其ノ學校經費ヲ繼續支出スルノ義務アルモノトス

第六條 各學校ニ補助金ヲ交付スルハ五箇年ヲ以テ一期トス滿期ノ後必要ニ依リ仍之ヲ繼續スルコトヲ得但シ文部大臣ニ於テ學校ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ第四條其ノ他文部大臣ノ定ムル所ノ規則ニ違背シタルトキ又ハ

第七類 實業教育費國庫補助法

第五條ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ補助年期間ト雖補助ヲ廢止若ハ停止
スルコトヲ得

第七條 第三條ニ掲ケル學校ノ教員ヲ養成スルノ必要アルトキハ文部大臣ハ第一
條ニ掲ケル金額ヨリ八分ノ一以内ヲ支出シ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得同上

第八條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第九條 此ノ法律ハ明治二十七年九月一日ヨリ施行ス

●實業教育費國庫補助法施行規則

(明治三十二年三月三十日
文部省令第二十號)

明治二十七年文部省令第十四號實業教育費國庫補助法施行規則ヲ改正スルコト
左ノ如シ

實業教育費國庫補助法施行規則

第一條 實業教育費國庫補助法ニ依リ補助ヲ受ケントスルトキハ學校管理者ヨ
リ文部大臣ニ申請スヘシ但實業補習學校ニ在リテハ明治三十二年文部省令第

十二號實業學校設置廢止規則第一條第一項各號ノ事項ヲ具スヘシ

第二條 補助ヲ受ケル學校ノ收支豫算ハ每會計年度前ニ文部大臣ノ認可ヲ受ケ
ヘシ但年度内ニ追加豫算ヲ議決シタルトキハ其都度文部大臣ノ認可ヲ受ケヘ
シ

收支決算ハ每會計年度經過後府縣郡市町村會又ハ組合會ノ認定ヲ經タル上直
ニ文部大臣ニ報告スヘシ

第三條 補助ヲ受ケル實業補習學校ニ於テハ明治三十二年文部省令第十二號實
業學校設置廢止規則第一條第一項第一號乃至第四號ノ變更ハ文部大臣ノ認可
ヲ受ケ第十號ノ變更ハ文部大臣ニ開申シ第六號ノ變更ハ道廳府縣立ノ學校ニ
在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申シ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認
可ヲ受ケヘシ(二十六年文部省令第六號第十六號ヲ以テ改正)

第七類 實業教育費國庫補助法施行規則

前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲナシタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ

第四條 道廳府縣郡立ニアラサル學校ノ管理者ニ異動アルトキハ其都度文部大臣ニ開申スヘシ

第五條 道廳府縣立ニアラサル實業學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ凡テ地方長官ヲ經由スヘシ

第一條ノ申請書ヲ進達スル場合ニ於テ地方長官ハ精査ノ上詳細ナル意見ヲ付シ併セテ其地方實業ノ情況ヲ具申スヘシ

第六條 補助金交付ノ手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則

第七條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

● 專門學校

● 專門學校令 (明治三十六年三月二十六日勅令第六十一號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ專門學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (文部大臣副署)

專門學校令

第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス

專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 北海道府縣又ハ市ハ土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ限り專門學校ヲ設置スルコトヲ得但シ沖繩縣ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 私人ハ專門學校ヲ設置スルコトヲ得

第四條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ

第七類 專門學校令

程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ美術、音樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得

前項檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス

第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

公立又ハ私立ノ專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第九條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 公立專門學校ノ職員ノ旅費及給與ニ關スル規程ハ文部大臣ノ認可ヲ經

テ地方長官之ヲ定ム

第十一條 公立ノ專門學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニハ之ヲ減免シ又ハ徵收セサルコトヲ得

第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ス

附則

第十三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治二十年勅令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

第十五條 既設ノ公立又ハ私立ノ學校ニシテ本令ニ依ルヘキモノハ本令施行ノ

日ヨリ一箇年以内ニ第四條ニ準シ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササルモノハ前項ノ期間ノ滿了ト共ニ廢校シタルモノト看做

ス

第一項ノ手續ヲ爲スモ不認可ノ命令ヲ受ケタルモノハ其ノ命令ヲ受ケタル日ニ於テ廢校シタルモノト看做ス

第七類 專門學校令

第十六條 千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學專門學校、東京外國語學校、東京美術學校及東京音樂學校ハ本令施行ノ日ヨリ專門學校トス

●公立私立專門學校規程

(明治三十六年三月三十一日 文部省令第十三號)

公立私立專門學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

公立私立專門學校規程

第一條 專門學校令第四條ニ依リ專門學校ノ設置ノ認可ヲ受ケントスルモノハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 位置

四 學則

五 生徒定員

六 敷地建物ノ圖面及其ノ所有ノ區別

七 開校年月

八 經費及維持ノ方法

九 設立者ノ履歷

醫學專門學校ニ就キテハ臨床實習用病院ノ位置、敷地建物ノ圖面、臨床實習用患者ノ定員及解剖用屍體ノ豫定數ヲ具スヘシ

第一項第二項ノ敷地ニ關スル圖面ニハ面積、地質及附近ノ狀況ヲ記シ且飲料水質ノ調査書ヲ添付スヘシ

第一項第一號乃至第七號及第二項ニ掲ケタル事項ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一項第八號ニ掲ケタル事項ノ變更ハ遲滞ナク文部大臣ニ届出ヘシ

第七類 公立私立專門學校規程

第二條 專門學校ハ校地、校舍、校具其ノ他必要ノ設備ヲ爲スヘシ

第三條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第四條 校舍ニハ左ノ諸室ヲ備フヘシ

一 教室

二 事務室

三 其ノ必要ナル實驗室、實習室、研究室、圖書室、器械室、標本室、藥品室、製煉室等ノ諸室

校舍ハ教授上管理上並衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第五條 校具ハ教授上必要ナル圖書、器械、器具、標本、模型等トス

第六條 專門學校ニ於テハ左ノ表簿ヲ備フヘシ

一 學則、日課、教科用圖書配當表

二 職員ノ名簿及履歷書、出勤簿、擔任學科目及時間表

三 生徒學籍簿、出席簿、徴兵猶豫ニ關スル書類

四 試験ノ問題、答案及成績表

五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及學年、卒業ノ年月日、入學試験ノ有無、轉學退學ノ事由、徴兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

別科ノ生徒ニ關シテハ出席簿、徴兵猶豫ニ關スル書類ヲ省略シ及學籍簿ノ記入事項ヲ便宜省略スルコトヲ得

第七條 專門學校ノ教員タルコトヲ得ヘキ者左ノ如シ

一 學位ヲ有スル者

二 帝國大學分科大學卒業者又ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者

三 文部大臣ノ指定シタル者

第七類 公立私立專門學校規程

四 文部大臣ノ認可シタル者

前項第一號乃至第四號ニ該當スル者ヲ得難キ場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ一時他ノ者ヲ以テ教員ニ代用スルコトヲ得

前二項ニ依リ認可ヲ受ケントスル場合ニハ公立學校ニ在リテハ管理者私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ本人ノ履歷書ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ奏薦ニ依リ任命セラルル者ニ就テハ別ニ認可ノ手續ヲ經ルコトヲ要セス
文部大臣ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ場合ニ於テ學術ノ檢定ヲ行フコトアルヘシ

本條ニ依ル文部大臣ノ認可ハ當該學校在職中ニ限り有效トス

第八條 專門學校ニ於テ本科生徒ヲ入學セシムルハ毎年一回トス其ノ期間ハ三十日以内トス但シ學科課程相同シキ專門學校ニ於ケル生徒ノ轉學ニハ本文ヲ適用セス(三十八年文部省令第十三號ヲ以テ全條改正)

專門學校ノ本科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ本科第一學年ニ入學スル

コトヲ得ル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ學年級ヲ設ケサル專門學校ニ就キテモ亦之ニ準ス
前項入學者ノ學力ハ總テ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第九條 美術學校音樂學校ノ入學資格ハ中學校若ハ高等女學校第三學年修了ノ程度以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一箇年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

第十一條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第十二條 專門學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡ソ左ノ如シ

第七類 公立私立專門學校規程

- 一 入學資格、修業年限、學科、學科目、學科程度ニ關スル事項
- 二 學年、學期、休業日ニ關スル事項
- 三 入學、退學、進級、卒業等ニ關スル事項
- 四 懲戒ニ關スル事項
- 五 入學料、授業料等ニ關スル事項
- 六 豫科、研究科、別科ニ關スル事項
- 七 寄宿舎ニ關スル事項

第十三條 專門學校令第四條ニ依リ專門學校ノ廢止ノ認可ヲ受ケントスルモノハ其ノ理由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第十四條 專門學校令第十五條ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケントスルモノニ付テハ本令第一條ヲ準用ス

第十五條 實業專門學校ニ關シテハ特別ノ規定アル場合ニハ本令ヲ適用セス

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス
 明治十五年文部省達第四號、同第五號、及同第六號中甲種藥學校ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

● 專門學校入學者檢定規程 (明治三十六年三月三十一日) 文部省令第十四號

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ此規程ニ依リ檢定ヲ受ケヘキモノトス

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 年齡男子ハ滿十七年以上女子ハ滿十六年以上ナルコト
- 二 身體健全ナルコト
- 三 品行方正ナルコト
- 四 現ニ中學校若クハ高等女學校ニ在學セサルコト

第三條 檢定ヲ分テ試験檢定、無試験檢定ノ二トシ試験檢定ハ官立、公立ノ中學

第七類 專門學校入學者檢定規程

校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試験檢定ハ當該專門學校ニ於テ生徒入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試験檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業ノ程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ニ合格シタル者ニハ試験檢定合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ノ問題、答案及成績表ハ五箇年以上保存スヘシ

第七條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ハ試験檢定手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第八條 左ニ掲グル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一 文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等

女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

二 明治三十五年文部省告示第八十二號ニ依リ高等學校入學ノ豫備試験ニ合格シタル者

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

●私立學校

●私立學校令

(明治三十二年八月二日勅令第三百五十九號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ私立學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

私立學校令

第一條 私立學校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ屬ス

第二條 私立學校ヲ設立セントスル者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七類 私立學校令

私立學校ノ廢止及設立者ノ變更ハ監督官廳ニ開申スヘシ

第三條 私立學校ニ於テハ校長若ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケヘシ

本令中學校長ニ關スル規定ハ之ヲ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ニ適用ス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ私立學校ノ校長又ハ教員ト爲ルコトヲ得

ス

- 一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
- 三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 四 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二箇年ヲ經過セス又ハ懲戒ヲ免除セラレサル者
- 五 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者

六 性行不良ト認ムヘキ者

第五條 私立學校ノ教員ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ除ク外其ノ學力及國語ニ通達スルコトヲ證明シ小學校、盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教員ニ在リテハ地方長官其ノ他ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ但シ專ラ外國語、專門學校又ハ特種ノ技術ヲ教授スル教員及專ラ外國人ヲ入學セシムル爲ニ設立シタル學校ノ教員ハ國語ニ通達スルコトヲ證明スルコトヲ要セス

前項ノ認可ハ當該學校在職間有效ノモノトス

第六條 前條ノ證明ヲ不充分ト認メタルトキハ監督官廳ハ本人ノ志望ニ依リ試驗ヲ施スコトアルヘシ

第七條 私立學校ノ校長又ハ教員ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ其ノ與ヘタル認可ヲ取消スコトヲ得

第八條 私立學校ニ於テハ公立學校ニ代用スル私立小學校ヲ除ク外學齡兒童ニ
第七類 私立學校令

シテ未タ就學ノ義務ヲ了ラサル者ヲ入學セシムルコトヲ得ス但シ小學校令第二十一條及第二十二條ニ依リ市町村長ノ許可ヲ受ケタル兒童ヲ入學セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第九條 私立學校ノ設備授業及其ノ他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之カ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

一 法令ノ規定ニ違反シタルトキ

二 安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ虞アルトキ

三 六箇月以上規定ノ授業ヲ爲ササルトキ

四 第九條ニ依リ監督官廳ノ爲セル命令ニ違反シタルトキ

第十一條 監督官廳ニ於テ學校ノ事業ヲ爲スモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ關係者ニ通告シ本令ノ規定ニ依ラシムヘシ

第十二條 第十條ニ依ル處分ニ對シテハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ通告ヲ受ケ第二條第一項ノ手續ヲ爲ササル者及第二條第二項ノ規定ニ違反シタル者並第十條ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル後尙私立學校

ヲ繼續スル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第三條又ハ第五條ノ認可ヲ得スシテ私立學校ノ校長又ハ教員タル者

及第七條ニ依リ認可ヲ取消サレタル後尙私立學校ノ校長又ハ教員タル者ハ三

十圓以下ノ罰金ニ處ス

情ヲ知リテ之ヲ使用シタル者亦同シ

第十五條 第八條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 本令ノ規定ハ私立幼稚園ニ準用ス

第十七條 文部大臣ハ本令施行ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

附則

第十八條 本令ハ明治三十三年八月四月ヨリ施行ス

第十九條 既設ノ私立學校ニシテ未タ設立ノ認可ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ

第七類 私立學校令

九十七

日ヨリ三箇月以内ニ本令ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケルシ
第二十条條 本令施行ノ際現ニ私立學校ノ校長又ハ教員タル者ニシテ引續キ當該
學校ノ校長又ハ教員タラント欲スル者ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル教員
ヲ除ク外本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ旨ヲ監督官廳ニ開申スヘシ此ノ
場合ニ於テハ第三條又ハ第五條ノ認可ヲ受ケルヲ要セス

●私立學校令施行規則

(明治三十二年八月三日
文部省令第三十八號)

明治三十二年勅令第三百五十九號私立學校令第十七條ニ依リ私立學校令施行規
則ヲ定ムルコト左ノ如シ

私立學校令施行規則

第一條 私立學校令第二條ニ依リ私立學校設立ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ
事項ヲ記載シタル書類ニ校地、校舍、寄宿舎ノ圖面ヲ添ヘ監督官廳ニ申請ス

一 目的

二 名稱

三 位置

四 學則

五 經費及維持方法

前項第一號乃至第三號及校地、校舍、寄宿舎ノ變更ハ監督官廳ニ開申シ第四
號ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケルニ依リ之ヲ爲スル事ニ依リ之ヲ爲スル事ニ
第二條 學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項

二 學科課程、授業時間ニ關スル事項

三 試験ニ關スル事項

四 入學退學ニ關スル事項

五 授業料入學等ニ關スル事項

第七類 私立學校令施行規則

六 賞罰ニ關スル事項

七 寄宿舎ニ關スル事項

八 職員ノ職務ニ關スル事項

第三條 私立學校令第三條第一項又ハ第五條第一項ニ依リ私立學校ノ校長、學校代表者又ハ教員タルノ認可ヲ受ケントスル者ハ履歴書ヲ添ヘ監督官廳ニ申請スヘシ

第四條 私立學校令第六條ニ依リ施スヘキ試験ハ小學校、盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校教員ニ在リテハ小學校教員檢定委員、其ノ他ニ在リテハ師範學校、中學校、高等女學校教員檢定委員又ハ文部大臣ノ特ニ選定シタル委員ヲシテ之ヲ行ハシム

第五條 私立學校ハ種類ニ依リ別段ニ規定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附則

第六條 明治十四年文部省達第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

● 教員

● 教員免許令

(明治三十三年三月三十日 勅令第三百三十四號)

朕教員免許令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教員免許令

第一條 特別ノ規定アル場合ヲ除ク外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除ク外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サルハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス

第四條 教員檢定ハ試験檢定及無試験檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ

第七類 教員免許令

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受ケルコトヲ得ズ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限

ニ在ラス

二 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラ

レタル者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ

債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一學科目毎ニ金參圓ヲ納付スヘ

シ

第七條 教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公

告ス

第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シ

タルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ヲ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコト

ヲ得

前項ニ依リ免許狀ヲ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘ

シ

第十條 教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其

ノ效力ヲ失フ

第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱ス

ルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪

ス

第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用井之ヲ願書ニ貼付スヘ

シ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附則

第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七類 教員免許令

第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學校師範學科卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

●教員檢定ニ關スル規程 (明治三十三年六月一日) (文部省令第十號)

明治三十三年勅令第三百三十四號教員免許令第七條ニ基キ教員檢定ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

教員檢定ニ關スル規程

第一條 教員檢定ハ受檢人ノ學力、品行、身體ニ就キ教員タルニ堪能ナルヤ否ヤヲ檢定スルモノトス

第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目ハ法令ニ規定アルモノニ限ル但シ法制及經濟ノ試験檢定ハ修身若ハ教育ノ免許狀ヲ有スル者ノ外修身若ハ教育ヲ併セテ出願スルニアラサレハ之ヲ行ハス此場合ニ於テハ其ノ手数料ニ關シテハ之ヲ一學

科目ト看做ス (三十六年文部省令第二號ヲ以テ但書追加)

國語、漢文ハ合セテ一學科目トシテ檢定ス
修身、倫理ハ同一學科目トシテ檢定ス

數學ハ算術代數幾何、三角法ノ二部ニ博物ハ動物生理、植物、礦物ノ三部ニ
圖畫ハ毛筆畫用器畫、鉛筆畫用器畫ノ二部ニ體操ハ普通體操、兵式體操ノ二
部ニ分チテ檢定ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一學科目ノ一部若ハ數部
ノ檢定ヲ出願スルモ其ノ手数料ニ關シテハ一學科目ト看做ス

三角法ハ算術代數幾何ノ檢定ニ合格シタル上ニアラサレハ檢定ヲ行ハス

第三條 試験檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ
試験檢定ノ出願期限、試験ヲ爲スヘキ學科目及試験施行ノ期日ハ豫メ之ヲ告
示ス

第四條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ氏名、族籍、住所、生年月及教員タラムト欲
スル學校ノ種類、學科目ヲ記シタル願書 (一號書式) ニ左ノ書類ヲ添ヘ試験
第七類 教員檢定ニ關スル規程 百五

檢定ニ在リテハ地方廳ヲ經由シ無試験檢定ニ在リテハ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一 學業、業務、賞罰等ニ關スル履歷書（二號書式）及學業證書若ハ教員免許狀ノ寫

二 學校醫ノ身體檢查書（三號書式）但シ學校醫ヲ設置ナキ地ニ在リテハ明治三十一年文部省令第七號第一條若ハ第二條ニ該當スル資格アル醫師ノ

檢查書ヲ以テスルモ妨ケナシ

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ品行ニ就キ檢定願書ニ添ヘ其ノ意見ヲ附記スルコトヲ要ス

第五條 左ノ第一號乃至第四號ニ掲ケル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ第五號ニ掲ケル者ハ其ノ免許ノ學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得（三十六年文部省令第二號ヲ以テ本文改正）

一 文部大臣ノ指定シタル官立學校ノ卒業生及選科終了生

二 師範學校、中學校、高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ卒業生ノ教員免許資格ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ニ入り三學年以上

在學シテ卒業シタル者但シ修業年限五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス

三 師範學校、中學校、高等女學校及之ト同等以上ノ學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ於テ修學シ學位若ハ卒業證書

ヲ受領シタル者

四 外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

五 教員タラムト欲スル學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者

六 教員タラムト欲スル學校ノ學科程度ト同等以上ノ官立學校ニ於テ一箇年

第七類 教員檢定ニ關スル規程

以上教員タル者若ハ教員タリシ者

左ニ掲クル者ハ體操ニ關シ前項第一號ニ準スルコトヲ得

一 陸軍歩兵科士官

二 元陸軍教導團歩兵科卒業生

三 陸軍歩兵科下士任官後滿四年以上現役ニ服シタル者

四 私立日本體育會體操學校本科優等卒業生

第六條 前條ニ依リ無試験檢定ヲ出願シタル者ニシテ教員檢定委員會ニ於テ試

験ヲ必要ト認メラレタルトキハ本人ノ志望ニ依リ更ニ出願ヲ要セス次期ノ試

験檢定ニ於テ出願ノ學科目ニ就キ直ニ本試験ヲ受クルコトヲ得

第七條 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トス但シ學科目ノ種類ニ依リ豫備試験

ヲ行ハサルコトアルヘシ

豫備試験ヲ施行スル學科目ニ在リテハ豫備試験ニ合格シタル者ニアラサレハ

本試験ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 試験ハ受験人出願ノ學科目ニ就キ其ノ教員タラムト欲スル學校ノ學科

目ヲ教授スルニ足ルヘキ程度ヲ標準トシ教授法ヲ併セテ之ヲ行フモノトス

第九條 豫備試験ハ願書經由ノ地方廳所在地ニ於テ之ヲ行フ

本試験ヲ行フ場所ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第十條 豫備試験ニ合格シタル者ハ爾後引續キ行フ本試験ヲ三回マテ受クルコ

トヲ得

第十一條 受檢人歴史、地理及算術代數幾何ノ試験ニ合格セサルモ其ノ一部分

ノ成績佳良ナルトキハ其ノ部分ニ對シ證明書ヲ授與スルコトアルヘシ

前項ノ證明書ヲ有スル者更ニ檢定ヲ出願スルトキハ證明書ニ記載シタル部分

ヲ省キ其ノ他ノ部分ニ就キ試験ヲ行フ但シ證明書ノ效力ニ關シテハ第十條ノ

規定ヲ準用ス

第十二條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケムト企テタル者及試験ニ關スル規程ニ

違背シタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第七類 教員檢定ニ關スル規程

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トスルコト
アルヘシ

附則

第十三條 本令施行ノ際同一學校ニ於テ同一學科目ニ就キ三箇年以上引續キ現
ニ教授ニ從事シ成績佳良ナル者ニ就テハ地方長官ノ稟申ニ依リ其ノ教授シタ
ル學科目ニ關シ其ノ學校ト同種類ノ學校ノ教員トシテ特ニ無試験檢定ヲ行フ
コトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ本令第四條第一項ニ準シ必要ナル書類ヲ添付ス
ルコトヲ要ス

第十四條 明治三十二年文部省令第二十五號第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル公
立、私立學校ハ本令第五條第二項第二號ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十五條 明治二十九年文部省令第十二號師範學校、中學校、高等女學校教員
免許規則ニ依ル豫備試験ノ合格者及證明書ノ受領者ニ對シテハ本令第十條第

十一條ヲ準用シ仍其ノ效力ヲ存續セシム(書式略ス)

●學位

●學位令

(明治三十一年十二月九日
勅令第三百四十四號)

朕學位令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

學位令

第一條 學位ハ法學博士、醫學博士、藥學博士、工學博士、文學博士、理學博
士、農學博士、林學博士及獸醫學博士ノ九種トス

第二條 學位ハ文部大臣ニ於テ左ニ掲クル者ニ之ヲ授ク

- 一 帝國大學大學院ニ入り定規ノ試験ヲ經タル者又ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ
請求シ帝國大學分科大學教授會ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト認め
ル者
- 二 博士會ニ於テ學位ヲ授クヘキ學力アリト認めタル者

第七類 學位令 學位令細則

帝國大學分科大學教授ニハ當該帝國大學總長ノ推薦ニ依リ文部大臣ニ於テ學位ヲ授クルコトヲ得

第三條 學位ヲ有スル者其ノ榮譽ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ博士會ノ議ヲ經テ文部大臣其ノ學位ヲ褫奪ス

第四條 明治二十年勅令第十三號學位令ニ依リ授與シタル學位ハ本令ノ學位ト同一ノモノトス

第五條 本令ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

●學位令細則

(明治三十二年一月七日 文部省令第一號)

明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第五條ニ基キ學位令細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

●學位令細則

第一條 學位ハ學位受領者ノ專攻シタル學科ノ區別ニ從ヒ之ヲ授ク

第二條 帝國大學大學院ニ入り定規ノ試驗ヲ經タル者アルトキハ當該帝國大學

總長ハ其試驗成績ニ履歷書ヲ添ヘ文部大臣ニ具申スヘシ

第三條 論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スル者ハ其專攻シタル學科ノ範圍内ニ屬ス

ル自著ノ論文ニ履歷書ヲ添ヘ其論文ヲ審査ヲ受クヘキ帝國大學分科大學教授會ヲ指定シテ文部大臣ニ申請スヘシ

第四條 學位記ノ樣式左ノ如シ (樣式略ス)

●曆時

●年號改元ノ詔勅

(明治元年九月八日 布告)

今般 御即位御大禮被爲濟先例之通被爲改年號候就テハ是迄吉凶之象兆ニ隨ヒ屢改號有之候得共自今 御一代一號ニ被定候依之改慶應四年可爲明治元年旨被仰出候事

詔書

第七類 年號改元ノ詔勅

詔體太乙而登位膺景命以改元洵聖代之典型而萬世之標準也朕雖否德幸賴 祖宗之靈祇承鴻緒躬親萬機之政乃改元欲與海內億兆更始一新其改慶應四年為明治元年自今以後革易舊制一世一元以為永式主者施行

戊辰九月八日

●改曆ノ詔書

(明治五年十一月九日 第三百三十七號布告)

今般改曆之儀別紙 詔書ノ通被 仰出候條此旨相達候事

(別紙詔書)

朕惟フニ我邦通行ノ曆タル太陰ノ朔望ヲ以テ月ヲ立テ太陽ノ躔度ニ合ス故ニ二三年間必ス閏月ヲ置カサルヲ得ス置閏ノ前後時ニ季候ノ早晚アリ終ニ推歩ノ差ヲ生スルニ至ル殊ニ中下段ニ掲ル所ノ如キハ率子妄誕無稽ニ屬シ人知ノ開達ヲ妨ルモノ少シトセス蓋シ太陽曆ハ太陽ノ躔度ニ從テ月ヲ立ツ日子多少ノ異アリト雖モ季候早晚ノ變ナク四歲毎ニ一日ノ閏ヲ置キ七千年ノ後僅ニ一日ノ差ヲ生

スルニ過キス之ヲ太陰曆ニ比スレハ最モ精密ニシテ其便不便モ固リ論ヲ俟タサルナリ依テ自今舊曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用ヒ天下永生之ヲ遵行セシメン百官有司其ノ斯旨ヲ體セヨ

一今般太陰曆ヲ廢 太陽曆御頒行相成候ニ付來ル十二月三日ヲ以テ明治六年一月一日ト被定候

但新曆鏤板出來次第頒布候事

一 一ヶ年三百六十五日十二ヶ月二分チ四年毎ニ一日ノ閏ヲ置候事

一 時刻ノ儀是迄晝夜長短ニ隨ヒ十二時ニ相分チ候處今後改テ時辰儀時刻晝夜平分二十四時ニ定メ子刻ヨリ午刻迄ヲ十二時二分チ午前幾時ト稱シ午刻ヨリ子

刻迄ヲ十二時二分チ午後幾時ト稱候事

一時鐘ノ儀來ル一月一日ヨリ右時刻ニ可改事

但是迄時辰儀時刻ヲ何字ト唱來候處以後何時ト可稱事

一 諸祭典等舊曆月日ヲ新曆月日ニ相當シ施行可致事

第七類 改曆ノ詔書 神武天皇御即位ヲ紀元ト定 百十五

(新舊曆日比較及時刻表ハ略之)

●神武天皇御即位ヲ紀元ト定ム (明治五年十一月十五日) (第三百四十二號布告)

今般太陽曆御頒行 神武天皇御即位ヲ以テ紀元ト被定候ニ付其旨ヲ被爲告候爲
メ來ル二十五日 御祭典被執行候事

但當日服者參 朝可憚事

干支之ニ竝相當スル陽曆日

以上ノ事項ハ帝國大學ニ於テ編纂スル所ノ曆ニ依ルヘシ但各項規定ノ外
本曆略本曆ニ掲載セサル事項ヲ記入スルハ此限ニ在ラス

●閏年ニ關スル件 (明治三十一年五月十日) (勅令第九十號)

朕閏年ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神武天皇即位紀元年數ノ四ヲ以テ整除シ得ヘキ年ヲ閏年トス但シ紀元年數ヨリ
六百六十ヲ減シテ百ヲ以テ整除シ得ヘキモノノ中更ニ四ヲ以テ其ノ商ヲ整除シ

ル得サル年ハ平年トス

●本初子午線經度計算方及標準時

(明治十九年七月十二日) (勅令第五十一號)

朕本初子午線經度計算方及標準時ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一英國グリニツチ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度ノ本初子午

線トス

一經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ西經ヲ負ト

ス

一明治二十一年一月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ本邦一般ノ標

準時ト定ム

●標準時改稱 (明治三十八年十二月二十七日) (勅令第六十七號)

閏年ニ關スル件 本初子午線經度計算方 百十七
及標準時 標準時改稱

第一條 帝國從來ノ標準時ハ自今之ヲ中央標準時ト稱ス
第二條 東經百二十度ノ子午線ノ時ヲ以テ臺灣及澎湖列島並ニ八重山及宮古列島ノ標準時ト定メ之ヲ西部標準時ト稱ス
第三條 本令ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス

●本條子午線經度情狀及又對照表

(附錄) 明治二十九年一月一日

第八類 徵兵 附陸海軍刑法治罪法

◎徵兵

- 徵兵令
- 沖繩縣ニ徵兵令中六週間現役兵施行ノ件
- 沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行スル件
- 北海道ニ徵兵令ヲ施行スルノ件
- 徵兵事務條例
- 徵兵事務條例補則
- 徵兵事務條例施行細則
- 徵兵事務條例施行細則中北海道沖繩縣及大島八丈島小笠原島ニ施行スル諸件
- 徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書
- 目次

朕標準時ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

百十八

第一條 帝國從來ノ標準時ハ自今之ヲ中央標準時ト稱ス

第二條 東經百二十度ノ子午線ノ時ヲ以テ臺灣及澎湖列島竝ニ八重山及宮古列島ノ標準時ト定メ之ヲ西部標準時ト稱ス

第三條 本令ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス

第八類 徵兵 附陸海軍刑法治罪法

○徵兵

徵兵令	一
沖繩縣ニ徵兵令中六週間現役兵施行ノ件	一四
沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行スル件	一五
北海道ニ徵兵令ヲ施行スルノ件	一六
徵兵事務條例	一七
徵兵事務條例補則	四〇
徵兵事務條例施行細則	四三
徵兵事務條例施行細則中北海道沖繩縣及大島八丈島小笠原島ニ施行シ難キ諸件	六
徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書	一

目次

ニ關スル規程……………七

○陸軍一年志願兵……………七

陸軍一年志願兵條例……………七

陸軍一年志願兵條例施行細則……………八

試補及判任官見習並非職休職官吏ニシテ一年志願兵トナル者

服役ノ件……………七

○陸軍六週間現役兵……………九

陸軍六週間現役兵條例……………九

陸軍六週間現役兵條例施行細則……………一〇

○國民軍……………一〇

國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者及國民軍編入志願者ニ關

スル件……………一〇

國民軍編入志願者ノ願出ニ關スル規程……………一〇

補充兵役國民兵役ニ在ル者及國民軍編入志願者ニ關スル件……………一〇

○身體検査……………一〇

徵兵検査規則……………一一

陸軍身體検査手續……………一五

陸軍志願兵身體検査規則……………一七

○海軍志願兵……………一七

海軍志願兵條例……………一九

海軍志願兵徵募細則……………二三

海軍出身志願者身體検査格例……………二四

海軍志願兵及其家族ノ異動報告ノ件……………二九

○陸海軍刑法……………二九

陸軍刑法……………一五〇

目次……………三

臨時陸軍軍法會議並其管轄地内ニ於ケル陸軍刑法ノ適用ニ關

スル件……………一八〇

海軍刑法……………一八一

陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スルトキ換刑處分ノ件……………二六六

陸海軍刑法ノ適用ニ關スル件……………二六六

○陸海軍治罪法

陸軍治罪法……………二七

海軍治罪法……………三五

臨時海軍軍法會議法……………九一

第八類 徵兵 附陸海軍刑法治罪法

●徵兵

●徵兵令 (明治二十二年二月二十二日) 法律第一號

二十二年法律第二十九號 二十六年同第四號 二十八年同第十五號三十

七年緊急勅令第二百十二號 以 本令中改正

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セリ

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニテ年滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服ス

ルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

第八類 徵兵令

臨時陸軍軍法會議並其管轄地内ニ於ケル陸軍刑法ノ適用ニ關

スル件

海軍刑法

陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スルトキ換刑處分ノ件

陸海軍刑法ノ適用ニ關スル件

◎陸海軍治罪法

陸軍治罪法

海軍治罪法

臨時海軍軍法會議法

四

一八〇

一八一

一八二

一八三

一八四

一八五

一八六

一八七

第八類

徵兵

附陸海軍刑法治罪法

●徵兵

●徵兵令

(明治二十二年一月二十一日) 法律 第一一號

二十二年法律第二十九號、二十六年同第四號、二十八年同第十五號三十

七年緊急勅令第二百十二號ヲ以テ本令中改正

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服ス

ルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

第八類 徵兵令

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備
役ハ陸軍ハ四箇年四箇月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ陸軍ハ十箇年海軍ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之
ニ服ス

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在リテハ十二箇年四箇月海軍ニ在リテハ一箇年ニシ
テ其ノ年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服ス

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス

第一國民兵役ハ陸軍ニ在リテハ後備兵役又ハ召集セラレタル補充兵ニシテ其
ノ役ヲ終リタル者海軍ニ在リテハ後備兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵
役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第七條 各兵役ノ期間既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ時變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ
演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトア
ル可シ

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從
ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以
テ之ニ充ツ

海軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ
海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ
者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラ
ス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁(近衛師團ニ編入スル者ヲ除ク)ハ總テ之ヲ警
備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役
ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第八類 徵兵令

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム

第十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校(小學科及撰科等ノ別科ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認めタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ
一年志願兵ノ豫備役後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ

官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備役後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熱シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十七條 陸軍補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ

際シ之ヲ召集ス但陸軍補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル

陸軍補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第二十條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

- 第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者
- 第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過ケルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條 第十三條第一項ニ掲グル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歲迄ニ止ミ又ハ二十八歲ヲ過ケルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵收ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス外國ニ在ル者(朝鮮國ニ在ル者ヲ除ク)ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歲迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二歲ヲ過ケル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ

第八類 徵兵令

此限ニ在ラス

八

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備兵後備兵ニ在ルト陸軍補充兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ
法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ又第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ミ同條第二項ヲ當ル者ニシテ三十二歳迄ニ歸朝シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テ(戶主ニ非サル者ハ其戶主ヨリ)本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス
第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス
第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若ハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十二月一日(第十三條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算ス)ヨリ陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ
現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其豫備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス

第八類 徵兵令

九

十
豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第五章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲ササル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治三十二年ニ限り三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ漸ク以テ之ヲ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫スヘ

キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第二十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ

第八類 徵兵令

者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲クル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間(明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス)ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員

ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可ヘシ

第一項及第二項ノ届出ヲ爲ササル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分スヘシ

第八類 徵兵令

附則 (二十八年法律第十五號)

此ノ法律ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス但現今ノ豫備徴員ハ従前ノ規程ニ依ル

附則 (三十七年緊急勅令第二百十二號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際ニ於ケル第一補充兵及第二補充兵ハ前後ノ服役ヲ通算シテ十二箇年四箇月ニ滿ツル迄補充兵役ニ服セシム
本令施行ノ際第一國民兵役ニ在ル陸軍出身者ニシテ服役尙五箇年ニ滿タサル者ハ五箇年ニ滿ツル迄後備兵役ヲ終リタル者ニ在リテハ後備兵役ニ、第一補充兵役ヲ終リタル者ニ在リテハ補充兵役ニ服セシム

●沖繩縣ニ徵兵令中六週間現役兵施行ノ件

(明治二十八年十月四日 勅令第四百四十二號)

朕沖繩縣ニ徵兵令ノ一部施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年一月一日ヨリ沖繩縣ニ徵兵令第十三條第三項第四項ヲ施行ス

●沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行ス

ルノ件

(明治三十年七月三十日 勅令第二百五十八號)

朕沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十一年一月一日ヨリ沖繩縣及ヒ東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行ス
(三十七年勅令第四十九號ヲ以テ第二項削除)
小笠原島ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後本島外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

第八類

沖繩縣ニ徵兵令中六週間現役兵施行ノ件 十五
沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行スルノ件 北海道ニ徵兵令ヲ施行ス

●北海道ニ徴兵令ヲ施行スルノ件

十六

(明治二十八年九月二十日
勅令第百一十六號)

朕北海道ニ徴兵令ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 明治二十九年一月一日ヨリ北海道渡島、後志、膽振、石狩ノ四箇國ニ
徴兵令ヲ施行ス

明治三十一年一月一日ヨリ天鹽、北見、日高、十勝、釧路、根室、千島ノ七
箇國ニ徴兵令ヲ施行ス(三十年勅令第百五十七號ヲ以テ本項追加)

第二條 前條ノ徴兵令施行地ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者
ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徴集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後前條ノ區域
外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

占守島ニ轉籍移住ノ者ニ在リテハ滿三十二歳迄徴集ヲ猶豫ス滿三十二歳ヲ過
キ仍在住スル者ハ國民兵役ニ服セシム(三十三年勅令第百三十六號ヲ以テ

本項追加)

第三條 屯田現役豫備役下士卒ノ戶籍内ニ在ル者ハ徴集ヲ免除ス但シ專ラ兵村

ノ業務ニ従事セサル者ハ此限ニ在ラス

前項ニ依リ徴集免除ニ屬シタル者五箇年以内ニ其ノ資格ヲ失フトキハ徴集ニ
應セシム(同上勅令ヲ以テ本條改正)

第四條 從來徴兵令ヲ施行セル函館江差福山ニハ本令ヲ適用スルノ限ニアラ

●徴兵事務條例

(明治二十九年三月三十日
勅令第百一十二號)

第三十二年勅令第百十三號三十五年同第三十四號三十六年同第六十四號三
十七年同第四十七號ヲ以テ本令中改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ徴兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徴兵事務條例

第八類 徴兵事務條例

十七

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管及聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 聯隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡一市(北海道ニ在テハ區)又ハ一島廳ノ管轄區域ヲ以テ

一區ト爲ス

一市ニシテ二聯隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ更ニ徵募區ヲ檢查區ニ分チ區ヲ以テ檢查區

ト爲ス

第四條 歩兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區(第一師管ニ在テハ二聯

隊區)ヨリ其ノ他ノ兵員ハ其ノ師管各聯隊區ヨリ徵集ス但要員ヲ補充シ能ハ

サルトキハ他ノ聯隊區若クハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコトヲ得

近衛ノ歩兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其ノ他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集

ス

鐵道隊ノ兵員ハ第一第二第三第四第八及第九師管ヨリ徵集ス

警備隊ノ兵員ハ其ノ警備隊區ヨリ徵集ス

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル聯隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官、警備隊區徵兵官及

聯隊區聯合徵兵署徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ内務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄

ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長

ヲ首座トシ其ノ管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

北海道ニ於テハ師團長及北海道廳長官ヲ以テ師管徵兵官ニ充テ師團長ヲ首座

トシ其ノ管内徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區内徵募區毎ニ聯隊區司令官及島司郡市長(北海

第八類 徵兵事務條例

道ノ區ニ在テハ區長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官島司郡長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其ノ區内徵募事務ヲ執行ス
東京市、京都市、大阪市ニ於テハ検査區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ以テ聯隊區徵兵官ニ充テ聯隊區司令官ヲ首座トシ抽籤事務ヲ除ク外其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

第九條 聯隊區聯合徵兵署徵兵官ハ東京市、京都市、大阪市ニ於テ徵募區毎ニ聯隊區司令官、市長及各區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首座トシ其ノ區内抽籤事務ヲ執行ス
第十條 前二條ノ徵兵官事故アルトキハ聯隊區司令官及警備隊司令官ニ在リテハ師團長ニ於テ其ノ部下ノ佐官又ハ尉官ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシメ島司及郡市區長ニ在リテハ各其ノ職務ヲ代理スル者徵兵官ノ職務ヲ行フ
第十一條 (削除)

第十二條 (同上)

第十三條 毎年徵募事務執行中ハ師管徵兵醫官及聯隊區徵兵醫官聯隊區徵兵副醫官又ハ警備隊區徵兵醫官警備隊區徵兵副醫官ヲ置ク但シ警備隊區徵兵副醫官ハ時宜ニ依リ之ヲ置カサルコトヲ得

師管徵兵醫官ハ師團長ニ屬シ師管内徵兵身體検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵醫官ハ聯隊區司令官ニ警備隊區徵兵醫官ハ警備隊司令官ニ屬シ其ノ區内徵兵検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵副醫官ハ聯隊區徵兵醫官ヲ警備隊區徵兵副醫官ハ警備隊區徵兵醫官ヲ補佐ス

第十四條 師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵醫官及警備隊區徵兵醫官ハ陸軍二等軍醫一名聯隊區徵兵副醫官及警備隊區徵兵副醫官ハ陸軍二三等軍醫ノ内一名ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條 毎年徵募事務執行中ハ聯隊區徵兵署警備隊區徵兵署及聯隊區聯合徵兵署ニ事務員ヲ置キ該徵兵署ノ庶務ニ從事セシム

第八類 徵兵事務條例

第十六條 聯隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ聯隊區書記又ハ警備隊書記一名若ハ二名及看護長一名並島廳郡市書記（東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區書記）二名乃至四名ヲ以テ之ニ充ツ

聯隊區聯合徵兵署事務員ハ聯隊區書記一名若ハ二名市書記二名及各區書記二名乃至四名ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條（削除）

第三章 配賦

第十八條 毎年徵集スヘキ現役兵及補充兵ノ員數ハ上裁ヲ經テ陸軍大臣之ヲ各師管ニ配賦ス

第十九條 師團長ハ第十八條ニ依リ現役兵及補充兵ノ要員ヲ各聯隊區又ハ警備隊區ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十條 現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ基準トシテ之ヲ定ム

第四章 徵募

第二十一條 町村長（町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長以下同シ）ハ毎年

戶籍簿ニ依リ前年十二月一日ヨリ其ノ年十一月三十日迄ノ徵兵適齡者ヲ取調

ハ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り二月十五日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト

共ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出スヘシ

市長（東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區長）ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ聯隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十二條ノ二 假決處分ヲ受ケタル者ニシテ引續キ七箇年間所在不明ナルト

キハ其ノ所在分明トナルトキ徵集ニ關スル手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ各徵募區及檢査區ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク但土地廣濶若ハ交通不便若ハ壯丁多數ノ徵募區ニ於テ

ハ二箇所以上ノ地ニ逐次開設スルコトヲ得

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤執行ノ爲メ別ニ徵募區ニ聯隊區聯合徵

第八類 徵兵事務條例

兵署ヲ設ク

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署開設ノ日割ヲ定メ聯隊區司令官警備隊司令官ハ師團長ニ島司郡市長ハ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ

島司郡市長ハ検査抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ豫メ其ノ管内ニ告示ヘスシ
第二十四條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其ノ検査ハ徵兵官ノ面前ニ於テスルモノトス

町村長ハ前項ノ検査ニ列席シ徵兵官ノ諮詢ニ應スヘシ
第二十五條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十六條 島司郡市長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第二十七條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵

集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ處分ヲ爲シ又壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ作ルヘシ

第二十八條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ之ヲ行フ

抽籤ハ徵兵官及町村長列席ノ上抽籤總代人ヲ爲スモノトス
抽籤總代人ハ徵兵官其ノ年ノ壯丁ニ就キ市町村長（東京市、京都市、大阪市ニ在ツテハ區長以下同シ）ヲシテ之ヲ選定セシム其ノ人員ハ適宜トス

第二十九條 前條ノ徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿ニ通テ作ルヘシ

第三十條 抽籤終ルトキハ抽籤名簿及徵集名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ領シ抽籤名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免

除名簿ハ島司郡市長之ヲ領シ島廳、郡市役所ニ備置クヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤名簿ヲ除クノ外ハ區長之ヲ領シ區役所ニ備置クヘシ
第三十一條 各徵募區ノ抽籤終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第九條ノ配賦ニ基キ現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又徵集名簿ヲ以テ現役兵名簿、補充兵名簿及要員超過名簿ヲ作ルヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿ヲ各聯隊長（聯隊ヲ爲ササル隊ニ在テハ其ノ隊長）及鎮守府兵事官ニ交付シ且現役兵ニ徵募スヘキ者及補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ
抽籤名簿及補充兵名簿ハ之ヲ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ備置キ要員超過名簿ハ島司郡市長ニ交付シ島廳郡市役所ニ備置クヘシ

第三十三條 第二十七條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官第三十二條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官各其ノ證書ヲ附與ス但徵集免除ノ者並ニ要員ニ超過シタル者ニハ證書ヲ附與セズ

第三十四條 徵募事務終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り十一月十日迄ニ師團長ニ差出シ師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り十一月三十日迄ニ陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上スヘシ

第五章 裁決

第三十五條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第三十六條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ現役兵徵募、補充兵編入、要員超過、徵集免除及兵役免除ノ事ヲ裁決ス

第三十七條 徵集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ裁決ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ其ノ他ノ裁決ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ爲ス

第三十八條 壯丁若クハ其ノ家族ニ於テ徵兵令第二十二條及明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ關スル聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服

第八類 徵兵事務條例

アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲ニ裁決ノ執行ヲ停止セズ本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期日ヲ過ケルモノハ受理セス

第三十九條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サントスル者ハ其ノ訴願書ニ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戶主三名ノ保證書ヲ添ヘ其ノ裁決ヲ爲シタル徵兵官ヲ經由シテ差出スヘシ
徵兵官前項ノ訴願書ヲ受領シタルトキハ之ニ前裁決ニ關スル書類ヲ添ヘ上級ノ徵兵官ニ差出スヘシ

第四十條 總理徵兵官又ハ師管徵兵官ハ下級徵兵官ノ處分違法又ハ不當ナリト認ムルトキハ之ヲ取消シ更ニ處分ヲ命スヘシ但シ師管徵兵官ハ總理徵兵官ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サズ

第六章 現役兵及補充兵

第四十二條 現役兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年六月一日トシ砲兵輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年四月一日第三期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ四期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年三月一日第三期ハ同年六月一日第四期ハ同年九月一日トス

第二師管第七師管第八師管及第九師管ニ於テハ砲兵輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年四月一日第二期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年三月一日第二期ハ同年六月一日第三期ハ同年九月一日トス但シ第七師管及第八師管ニ於テ輜重輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年五月一日第二期ハ同年八月一日トス

第八類 徵兵事務條例

戰時若ハ事變ノ際其ノ他必要ノ場合ニ在テハ前諸項ノ入營期日ヲ變更スルコトヲ得

第四十三條 現役兵ヲ入營セシムルトキハ聯隊區司令部員ヲ入營地若ハ近衛、海軍入營兵集合地ニ派遣シ之ヲ當該隊長又ハ近衛、海軍入營兵受領員ニ交付セシム但シ土地ノ狀況ニ由リ入營兵引卒員ヲシテ入營地若ハ近衛、海軍入營兵集合地ニ引卒セシムルコトアルヘシ
入營兵ノ人員寡少ナルトキ及入營兵受領員出發後到着シタル者ハ直ニ入營セシム

第四十四條 現役兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許スヘシ

其ノ延期ヲ願フ者ハ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ其ノ父母疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ差出スヘシ

第四十五條 現役兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍（戶籍上本人ノ出入モ含有ス以下同シ）スルモ所屬ノ隊籍ヲ變更セス

徵兵令第二十七條ニ當リ翌年同ト爲リタル者ハ身體検査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルモノトス但第四條ノ區域外ニ轉籍シタル者ハ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ行

七 隊籍ヲ定ム

第四十六條 現役兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ缺員ヲ生シ若ハ入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後死亡シタル者若クハ一時服役ニ堪ヘサル者又ハ常備後備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ徵募年ノ翌年一月三十一日迄ニ其ノ徵募區同兵種ノ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充シ若シ其ノ徵募區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ聯隊區内他ノ徵募區ヨリ補充ス其ノ配賦ハ各徵募區補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム但警備隊諸兵及砲兵輸卒、輜重輸卒ニシテ本文ノ事故ヲ生シタル者アルトキハ入營スヘキ月ノ十日迄ニ次期入

第八類 徵兵事務條例

營スヘキ者ヲ繰上ケ入營セシム其ノ最終期ニ在テハ前期ニ繰上ケタル缺員ト
 其ノ期ノ缺員ハ第一補充兵ヲ以テ補充ス
 看護卒ニシテ前項ノ事故ヲ生シタル者アルトキハ入營スヘキ月ノ十日迄ニ其
 ノ徵募區同兵種ノ第一補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充ス
 臨時ニ多數ノ現役兵ノ闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ前諸項ノ期日ニ拘ラス第
 一補充兵ヲ以テ各年次ニ於ケル現役兵ノ闕員ヲ補充スルコトヲ得
 第四十七條 現役兵入營前療疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキ
 ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ兵役ヲ免ス但徵兵令第二十七條ニ當
 リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラス
 第四十八條 現役兵入營前徵兵令第二十二條ニ當ルヘキ事故ヲ生スルトキハ本
 人ノ願ニ由リ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ徵集ヲ延期ス
 其ノ願書ニハ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ現役兵ノ戶主二名ノ保證書ヲ
 添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但東京市

京都市、大阪市ニ在テハ區長、町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受ケヘキモ
 ノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警
 備隊司令官ニ送付スヘシ

第四十九條 現役兵入營前及補充兵（補充兵證書附與後其ノ年十一月三十日以
 前ノ者以下同シ）轉籍シタルトキハ十四日以内ニ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司
 令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町
 村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備
 隊司令官ヨリ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十條 現役兵入營前及補充兵寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスル
 トキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ市町村ニ在リテハ市町村長

第八類 徵兵事務條例

ニ届出ツヘシ其ノ復歸シタルトキ亦届出ツヘシ
本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル
トキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七章 雜則

第五十一條 徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ願書
ニ戸主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ九月一日
以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ但軍隊
又ハ鎮守府遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵
兵署ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ルコトヲ得
検査ノ爲メ往復ノ旅費及入營旅費ハ自辨トス

第五十二條 第五十一條ニ依リ服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町
村長ニ届出ヘシ

第五十三條 他ノ徵募區ニ寄留シ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ冀望ス
ル者ハ寄留地ノ島司郡市長（東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長以下同
シ）ニ願出テ且其ノ由ヲ本籍ノ市町村長ニ届出ツヘシ更ニ寄留換ヲ爲シ其ノ
地ニ於テ身體検査ヲ受ケントスル者亦同シ此ノ場合ニ於テハ前寄留地ノ島司
郡市長ニモ届出ツヘシ

前項ノ願出期日ハ本籍地及寄留地徵募區ノ検査開始前三十日迄ニ限ルモノト
ス

島司郡市長ノ願ヲ許可シタルトキハ直ニ之ヲ本籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘ
シ
寄留地徵募區ノ身體検査ニ於テ合格シタル者ハ該徵募區ノ壯丁ト混同シテ抽
籤ヲ行フモノトス

第一項ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十四條 徵兵令第二十二條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應スヘキ

第八類 徵兵事務條例

壯丁ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ三月一日迄ニ（三月一日後身體検査前迄ニ事故ノ生シタル者ハ其ノ都度以下同シ）聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ但其ノ事故二年以上繼續スル者ハ毎年願出テ其ノ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本文ノ保證書ヲ添ヘ届出ヘシ
前項ノ願書及届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ

公使領事及貿易事務官ヲ置カサル國ニ在ル者及一定ノ地ニ在留セサル旅行ノ者ハ其ノ徵集猶豫願書ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ

公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者ト雖徵集猶豫願書ヲ差出ストキ未タ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ得サルトキハ之ニ換フルニ海外旅券ヲ

受取リタル官廳ノ承認書ヲ添ヘ差出シ置キ追テ證明書ヲ差出スコトヲ得

本條ノ願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十六條 明治二十八年勅令第二百六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

前項ノ願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十七條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ届出及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ届書ハ町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進達後ニ在テハ受領ノ日ヨリ三日以内ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出スヘシ

市長ハ前項ノ届書ヲ聯隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署開設ノトキ同署ニ提出スヘシ

第五十八條 疾病傷痍或ハ犯罪等ノ爲若ハ志願兵出願者ニシテ其ノ検査ノ爲徵兵検査ヲ受ケ難キ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司郡市長ニ届出ツヘシ其ノ

第八類 徵兵事務條例

疾病傷痍ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ
前項ノ届出ヲ爲シタル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ島司郡市町村長ニ届出
ツヘシ

島司郡長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス
本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十八條ノ二 一聯隊區内又ハ一警備隊區内ノ各徵募區ノ身體検査終決前前
條第二項ノ届出ヲ爲シタル者ニ對シテハ該區内便宜ノ徵兵署ニ於テ身體検査
及抽籤ヲ行フヘシ其ノ抽籤ハ第五十三條第四項ノ例ニ依ル

第五十九條 疾病傷痍或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入
營當日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痍ノ者ハ醫
師ノ診斷證書ヲ添フヘシ其ノ届書ニハ市町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノト
ス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 徵兵署ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、現役兵入營ノ旅費ハ官給
ス

第六十一條 第四十條ニ依リ更ニ處分ヲ爲ストキハ臨時徵兵署ヲ開設スルコト
ヲ得

第六十二條 島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團
長、地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ身
體検査ヲ受クルコトヲ得其ノ願出手續及取扱ハ第五十三條ノ例ニ準ス

韓國在留ノ者ニ在テモ前項ノ例ニ依リ便宜ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クル
コトヲ得

第六十四條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其ノ年又ハ
翌年ノ徵集ニ應セシム但年齡二十六歳ヲ過キ轉籍シタル者ハ此ノ限ニ在ラ
ス

第八類 徵兵事務條例

第六十五條 第七師團ノ兵員ハ當分第一第二第七及第八師管ヨリ徵集ス但シ第七師管外ヨリ徵集スル者ノ入營ニ係ル取扱ハ第四十三條近衛、海軍入營兵ノ例ニ依ル

第六十六條 (削除)

第六十七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

(三十六年勅令第六十四號ノ附則)

第二十一條ノ改正ハ明治三十五年ニ於テ徵兵上ノ終決處分ヲ受ケタル者ニハ之ヲ適用セス

● 徵兵事務條例補則

(明治三十一年三月十二日勅令第四十一號)

三十三年勅令第三百三十七號三十五年同第三十五號三十七年同第

四十八號ヲ以テ本令中改正

朕徵兵事務條例補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵事務條例補則

第一條 徵兵事務條例中北海道及沖繩縣並東京府管下大島、八丈島(小島、青ヶ島、鳥島ヲ包含ス以下同シ)小笠原島ニ實施シ難キ諸件ハ當分本則ニ依ル

第二條 北海道廳支廳ノ管轄區域及沖繩縣ノ區ハ各之ヲ徵募區ト爲ス

第三條 (削除)

第四條 (同上)

第五條 明治三十年勅令第二百五十八號ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄(三月一日以後事故ノ生シタル者ハ其ノ都度以下同シ)ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及業務ノ現況ヲ詳記シ三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ツヘシ

第八類 徵兵事務條例補則

本條ノ願書ニハ町村長ニ準スヘキ者ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第六條 壯丁若ハ其ノ家族ニ於テ明治二十八年勅令第二百二十六號第三條明治三十年勅令第二百五十八號ニ依ル警備隊區徵兵官又ハ聯隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ徵兵事務條例第五章ノ規程ニ依リ訴願スルコトヲ得

第七條 (削除)

第八條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師管徵兵官ノ認可ヲ得某徵募區ノ徵兵署ヲ他ノ徵募區内ニ設クルコトヲ得

第九條 沖繩警備隊區ノ壯丁ハ之ヲ近衛師團第六師團第十二師團及海軍諸兵ニ徵集ス

沖繩警備隊區ニ於ケル現役兵及補充兵ノ要員ヲ其ノ區ノ壯丁ヲ以テ充スコト能ハサルトキハ其ノ不足員ハ第六師管及第十二師管若ハ其ノ一ヨリ補充ス現役兵入營後ニ於ケル缺員ハ徵兵事務條例第四條第一項及第五項ノ區域内ニ在ル補充兵ヲ以テ之ヲ補充ス但シ近衛兵ト爲リタル者ノ缺員ハ第六師管ヨリ

補充ス

前項補充兵ノ配賦ハ補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 第七師管ニ於ケル現役兵補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總員ヨリ明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項ニ當ルヘキ豫定ノ人員ヲ除算シタルモノヲ以テ基準トス

第十一條 沖繩警備隊區ヨリ徵集ノ現役兵入營ノトキハ地方吏員之ヲ引率シ入營地又ハ近衛、海軍入營兵集合地ニ於テ當該隊長近衛入營兵受領員又ハ鎮守府兵事官ニ交付セシム

第十二條 徵兵事務條例中警備隊司令官ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官、市長市書記ノ職務ハ沖繩縣ニ在テハ區長區書記、郡市長郡市書記ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長同支廳ノ屬、町村長ノ職務ハ沖繩縣及大島、八丈島、小笠原島ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

警備隊區司令官、區長又ハ支廳長事故アルトキハ徵兵事務條例第十條ノ規定

第八類 徵兵事務條例補則

ヲ準用ス

第十三條 北海道廳紗那支廳管下及大島、八丈島、小笠原島ニ於ケル聯隊區徵兵官タル聯隊區司令官ノ職務ハ聯隊區副官若ハ他ノ將校ヲシテ臨時之ヲ行ハシムルコトヲ得

北海道廳紗那支廳管下及大島、八丈島、小笠原島ニ於ケル徵兵事務執行ノ際ハ徵兵事務條例第十四條ノ軍醫ノ外仍軍醫一名ヲ以テ聯隊區徵兵醫官ト爲スコトヲ得

附則

第十四條 本則中警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 第五條第一項及第二項ノ願出期日ハ明治三十一年ニ限り四月二十日迄トス

●徵兵事務條例施行細則

(明治二十九年四月二十三日) 陸軍省令 第十一號

三十年陸軍省令第七號、三十二年同第八號、三十五年同第七號、三十六年同第七號、三十七年同第七號、三十八年同第六號ヲ以テ

本令中改正)

徵兵事務條例施行細則左ノ通改正ス

徵兵事務條例施行細則

第一條 條例第二十一條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作り一市(東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區)一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其ノ人員ノ總計ヲ記シ市町村長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長)之ニ署名押印スヘシ

第二條 徵兵令第八條第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長)之ヲ調査シ人名書(各事項ヲ頭書ス)ヲ作り壯丁名簿ニ

第八類 徵兵事務條例施行細則

添附スヘシ

第三條 島司郡市長ハ毎年一月一日調ヲ以テ其ノ年ノ徵兵適齡者人員及前年假決ノ人員ヲ同月二十五日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ聯隊區司令官及警備隊司令官ハ其ノ人員ヲ取纏メ二月五日迄ニ報告シ師團長ニ報告シ師團長ハ二月二十日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

前項ノ人員中前年假決ノ人員ハ之ヲ別記スヘシ

第四條 聯隊區徵兵署聯隊區聯合徵兵署及警備隊區徵兵署ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ要スレハ吏員ヲ派シテ豫メ準備シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官到著ノ上之ヲ開設スヘシ

一 徵募區ハ二箇所以上聯隊區徵兵署ヲ設ケントスルトキハ聯隊區徵兵官豫メ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概ネ壯丁百七十八人(交通不便ノ地ニ在テハ適宜)ヲ召集スヘキ地ニ設ケヘシ

第五條 聯隊區徵兵署警備隊區徵兵署開設日割既ニ定マルトキハ島司郡市長

(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長)ハ其ノ徵募區又ハ検査區内ニ於テ毎日検査ヲ受クヘキ壯丁ノ順序ヲ定メ期日ニ至リ壯丁ヲ徵兵署ニ出頭セシムヘシ

第六條 身體検査ヲ行フトキハ島廳郡市書記(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長)ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其ノ他所要ノ件ヲ壯丁名簿(前年ノ假決名簿中検査ヲ受クヘキ者ノ名簿ヲ含有ス)ニ記入シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テスヘシ

第八條 身體検査ハ每年四月中旬ヨリ九月下旬迄ノ間ニ於テ之ヲ行フヲ例トス

其ノ日割表ハ附錄第十一様式ニ依リ之ヲ作り聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ二月二十日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ三月一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第八類 徵兵事務條例施行細則

第九條 徵兵令第二十條第二十一條第二十二條ニ依リ徵集延期ニ屬スル者徵兵令第二十三條及明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者並ニ徵兵令第十九條ニ依リ兵役免除ニ屬スル者ニハ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二第三様式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書兵役免除證書ヲ作り市ハ市長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）ヨリ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ付與セシムヘシ

第十條 徵兵令第二十二條ノ願ヲ許可セサル者及同條ノ事故繼續シテ三箇年ヲ過ケルモ仍ホ止マサル旨届出タル者ニシテ徵兵免除ニ屬セサル者ニハ其ノ裁決書ヲ市ハ市長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）ヨリ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ付與セシムヘシ

明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ノ願ヲ許可セサル者亦同シ

第十一條 陸軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘシ

- 一 歩兵ハ脚力強健ニシテ勞力ニ堪ヘ且成ルヘク視力聽力完全ナル者
- 二 騎兵ハ馬匹ノ使用ニ慣レ視力聽力完全身體輕捷性質敏捷言語明晰且他兵ニ比シ普通ノ文字ヲ解シ得ル者其ノ他要員ノ凡十二分ニハ踏蹴工卒ニ適スル者

三 砲兵ハ體力強大視力清明ナル者而シテ野戰砲兵要員ノ凡八分一ハ鍛工卒凡十六分一宛ハ木工、鞍工卒ニ適スル者要塞砲兵ハ成ルヘク讀書算術ヲ能クシ且要員ノ凡十六分一宛ハ鍛工、木工卒ニ適スル者

四 工兵ハ成ルヘク工兵ノ作業ニ適當シ膂力アル者其ノ他要員ノ凡二十分一ハ鍛工卒凡六分一ハ木工卒ニ適シ凡五分一ハ船ノ使用ニ慣レタル者又若干ハ電信鐵道ノ業務ニ從事シ成ルヘク讀書算術ヲ能クシ且手指硬固ナラサル者

第八類 徵兵事務條例施行細則

- 五 輜重兵、輜重輪卒及砲兵輪卒ハ成ルヘク馬匹ノ使用ニ慣レ且膂力アル者而シテ輜重兵ハ成ルヘク讀書算術ヲ能クスル者其ノ他輜重輪卒要員ノ凡五十分一ハ鞍工、木工、鍛工卒ニ適スル者
 - 六 砲兵助卒ハ成ルヘク膂力アリテ力役ニ堪フル者
 - 七 看護卒ハ成ルヘク患者ノ取扱ニ慣レタル者
- 第十二條 海軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選ブヘシ
- 一 水兵ハ體力強大ニシテ勞力ニ堪ヘ且成ルヘク性質敏捷言語明晰視力聽力完全ニシテ普通ノ文字ヲ解スル者
 - 二 機關兵ハ體力強健ニシテ視力聽力完全シ且成ルヘク普通ノ文字ヲ解シ機械若ハ汽鐘ノ取扱、火焚、鍛冶工業、機械工業、鑄造工業、製鐵工業ハ又ハ兵器ノ製造修理ノ業ニ慣レタル者
 - 三 軍樂生ハ普通ノ文字ヲ解シ齒列齊正指節強剛チラサル者
 - 四 木工ハ膂力アリテ成ルヘク其ノ職業ニ慣レタル者

- 五 看護ハ普通ノ文字ヲ解シ成ルヘク患者ノ取扱ニ慣レタル者
 - 六 主廚ハ成ルヘク割烹ノ職ニ慣レタル者
- 第十三條 條例第二十七條ノ諸名簿ハ種類ヲ分テ之ヲ編綴シ冊尾ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印スヘシ但シ徵兵令第二十三條第二項ニ依リ徵集猶豫中ニシテ志願兵ヲ出願シタル者ノ猶豫名簿ハ更ニ別綴ト爲シ各假決ノ區畫ニ其ノ事由ヲ記スルモノトス
- 公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其ノ年徵集スルヨト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ六週間現役ニ服スヘキ者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其ノ事由ヲ記スルモノトス
- 第十四條 聯隊區ニ於テ歩兵ノ要員ヲ充スコト能ハサルトキハ聯隊區司令官ヨリ之ヲ師團長ニ具狀シ師團長ハ師管内他ノ各聯隊區ニ配賦スヘシ其ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス
- 師管内ニ於テ要員ヲ充タジ能ハサルトキハ師團長ハ陸軍大臣ニ具狀スヘシ
- 第八類 徵兵事務條例施行細則
- 五十二

第十五條 徵兵令第二十三條及明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スヘキ者ニハ身體検査ヲ施行セス

第十六條 疾病傷痕ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者ハ時宜ニ由リ其ノ家ニ就テ検査スヘシ

第十七條 抽籤施行ニ先チ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ合格者ヲ人員ヲ調査シ兵種及甲乙兩種ニ分チ籤札ヲ作ルヘシ

籤ノ番號ハ甲乙兩種各合格者ノ數ニ應シ第一番ヨリ起ス例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其次番號ヨリ籤番號ヲ起スヘシ

第十八條 籤札ハ附録第四様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ徵兵官以前ニ置キ其ノ封ヲ披キ徵兵署事務員籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ビ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第十九條 條例第二十九條ノ抽籤名簿ハ附録第五様式ニ依リ之ヲ作り冊尾ニ徵

兵官署名押印スヘシ

第二十條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其ノ籤札ヲ徵兵署事務員ニ渡シ徵兵署事務員ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼附シ徵兵署印章ヲ以テ封印チ爲シ一人毎ニ之ヲ截チ切り總代人ニ交付シ總代人ハ之ヲ市町村長(東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長)ニ差出シ市町村長ハ之ヲ各人ニ交付スヘシ

第二十二條 身體検査ニ合格シタル壯丁中讀書算術ヲ能クシ且身元確實ナル者ニシテ抽籤ノ法ニ依ラス現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ許可スルコトヲ得

第二十三條 現役兵及補充兵ノ編入順序ハ左ノ如シ
一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者ハ二人以上ナルトキハ年齢ノ順序同年齡ノ者ハ抽籤ニ依ル第二項第三項第四項第六項第七項第八項ニ亦同シ

第八類 徵兵事務條例施行細則

- 二 甲種合格者ニシテ徴兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラズシテ徴集スル者
 - 三 甲種合格者ニシテ徴兵令第二十七條ニ當リ徴集スル者
 - 四 第二十二條ニ依リ現役志願ヲ許可シタル者
 - 五 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者(番號ノ順序ニ從フ第九項亦同シ)
 - 六 乙種合格者ニシテ徴兵令第二十八條ニ當ル者
 - 七 乙種合格者ニシテ徴兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラズシテ徴集スル者
 - 八 乙種合格者ニシテ徴兵令第二十七條ニ當リ徴集スル者
 - 九 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者
- 第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第三十一條ノ處分ヲ爲シタルトキハ附錄第六様式ニ依リ現役兵證書及補充兵證書ヲ作り市ハ市長ヲ經テ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ島司郡長及町村長ヲ經テ本人ニ付與スヘシ但

東京市、京都市、大阪市ニ在テハ尙ホ區長ヲ經由スヘシ

要員超過ノ爲メ國民兵役ニ服スル者ニハ前項ノ例ニ依リ其ノ由ヲ本人ニ達スヘシ

第二十四條 條例第三十一條ノ諸名簿ハ種類ヲ分テ編綴シ冊尾ニ聯隊區司令官

又ハ警備隊司令官署名押印スヘシ

第二十五條 條例第三十四條ノ徴兵表ハ附錄第七様式ニ準シ之ヲ作ルヘシ

第二十六條 壯丁名簿進達前(市ニ在テハ調製前)他ノ市町村ニ轉籍スル者ア

ルトキハ市町村長ヨリ本人徴兵適齡屆書ヲ添ヘ轉籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ

但シ原籍地東京市、京都市、大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市大

ルトキハ區長ニ通知スヘシ

第二十七條 壯丁名簿進達後條例第三十一條ノ處分前名簿ニ關スル異動亦生

タル者若クハ他ノ市町村ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ島司

郡長ニ報告シ抽籤前ハ島司郡長其ノ名簿ヲ訂正加除シ抽籤後ニ在テハ之ヲ聯

第八類 徴兵事務條例施行細則

隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ
市ニ在テ壯丁名簿調製後抽籤前本條ニ當ル者アルトキハ市長（東京市、京都
市、大阪市ニ在テハ區長）其ノ名簿ヲ訂正加除シ抽籤後條例第三十一條ノ處
分前ニ在テハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第二十八條 現役兵入營前及補充兵（補充兵證書付與後其ノ年十一月三十日以前ノ者）ノ名簿ニ關スル異動（轉入籍ヲ除ク）ヲ生シタルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ
市ニ在テ前項ノ異動ハ市長之ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長ヨリ聯隊區司令官及市長ニ通知スヘシ

第二十九條 壯丁名簿受領後（市ニ在テハ調製後）身體検査前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ壯丁名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知スヘシ但シ原籍地東京市、京都市、大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市ナルトキハ區長ニ通知スヘシ

身體検査ヲ終リタル徵募區ニ轉籍シタル者アルトキハ成ルヘク其ノ年便宜ノ徵兵署ニ呼出シ條例第五十三條ノ例ニ依リ身體検査及抽籤ヲ行フモノトス

第三十條 身體検査後條例第三十一條ノ處分前他ノ徵募區ニ轉籍スルモ總テ舊徵募區ニ於テ之ヲ處分スルモノトス

第三十一條 抽籤後徵集延期猶豫若クハ入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ニ關スル異動ヲ生ズル者アルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長其ノ名簿ヲ訂正加除スヘシ但市ニ在テハ市長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）之ヲ訂正加除スヘシ
其ノ徵募區外又ハ検査區外ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ前項ノ名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知スヘシ但シ原籍地東京市、京都市、大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市ナルトキハ區長ニ通知スヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第四十九條現役兵入營前及補充兵轉籍ノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ町村第八類 徵兵事務條例施行細則 五十七

長ニ達スヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長ニモ通知スヘシ
第三十三條 徵兵令第十三條第五項及條例第六十四條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡長ニ差出シ市ニ在テハ市長其ノ名簿ヲ作ルヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長其ノ取扱ヲ爲スヘシ

徵兵令第二十五條ニ依リ適齡届ヲ爲スヘキ期間ニ於テ戶主未定若ハ失踪等ノ場合ニ在リテモ亦前項ニ依リ取扱フモノトス

第三十四條 現役兵入營ノ期ニ先タチ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵入營地若クハ集合地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達スヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ尙ホ區長ヲ經由スヘシ

聯隊區外又ハ警備隊區外ニ轉籍シタル者ニ在テハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ其ノ召集ノ場所及日時ヲ新住地聯隊區司令官警備隊司令官ニ

通知シ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ前項ノ例ニ依リ之ヲ各自ニ達スヘシ

第三十五條 條例第四十三條及第六十五條並徵兵事務條例補則第十一條ニ依ル集合地ハ左ノ如シ

麻布、横濱、高崎、長野、佐倉、	近衛兵東	京	海軍兵	橫須賀	第七師團	宇都宮
水戸、本郷、宇都宮聯隊區ハ	集合地		集合地		兵	集合地
仙臺、福島聯隊區ハ	同	白河	同	白河	同	仙臺
新發田、柏崎聯隊區ハ	同	直江津	同	直江津	同	仙臺
弘前、盛岡、秋田、山形聯隊區	同	仙臺	同	仙臺	同	青森
名古屋、津、豊橋、靜岡聯隊區	同	沼津	同	四日市		
富山聯隊區ハ	同	直江津	同	敦賀		
金澤、鯖江、岐阜聯隊區ハ	同	名古屋	同	敦賀		

第八類 徵兵事務條例施行細則

大阪、和歌山、大津、京都聯隊區ハ	近衛兵 京都 集合地	海軍兵 神戸 集合地
福知山、神戸、姫路、鳥取、聯隊區ハ	同 神戸 同	同 姫路 同
廣島、尾道、山口、濱田聯隊區ハ	同 尾道 同	同 吳 同
丸龜、徳島、松山聯隊區ハ	同 丸龜 同	同 丸龜 同
高知聯隊區ハ	同 神戸 同	同 神戸 同
熊本、大村、鹿兒島、宮崎、小倉、大分、福岡、久留米聯隊區、沖繩警備隊區ハ	同 門司 同	同 佐世保 同
札幌、函館、旭川、釧路聯隊區ハ	同 青森 同	同 青森 同
對馬警備隊區ハ	同 門司 同	

第三十六條 東京衛戍及大阪衛戍ニ入營セシムル現役兵ハ條例第四十三條但書

ニ依リ引率員ヲ附シ之ヲシテ當該隊長ニ交附セシム對馬要塞砲兵隊ニ入營セシムル現役兵亦同シ

第三十七條 近衛師團第七師團及海軍現役兵入營ノ期ニ先々テ近衛師團第七師團司令部及鎮守府ニ於テ入營兵集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第七師團ニ在リテハ十二月入營スヘキ他ノ師管ヨリ徵集ノ人員ヲ十日間以内ニ於テ二回若ハ三回ニ分チ入營セシムルコトヲ得但シ其ノ期日ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三十八條 條例第四十四條ノ入營延期願濟ノ者其ノ他事故不參ノ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ入營地或ハ集合地派遣ノ聯隊區又ハ警備隊司令官ヨリ各隊長又ハ近衛師團若ハ海軍入營兵受領員ニ其ノ由ヲ通知スヘシ

第三十九條 條例第四十六條ニ依リ陸軍補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ現役兵

第八類 同徵兵事務條例施行細則

ノ缺員ヲ補フニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ其ノ取扱ヲ爲スヘシ
但他ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ轉籍シタル者ニシテ入營セサル者ノ補缺ハ轉籍
地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ通知ヲ得テ其ノ取扱ヲ爲スヘシ
條例第四十六條第三項ニ依リ現役兵ノ闕員ヲ補フ場合ニハ師團長ハ陸軍大臣
ノ認可ヲ受クヘシ

現役兵入營後ノ補缺ハ各隊長又ハ鎮守府兵事官ヨリ當該聯隊區司令官又警備
隊司令官ニ通知スルモノトス

第四十條 入營地又ハ集合地派遣ノ聯隊區司令部員又ハ警備隊司令部員ハ現役
兵交附ノ際ニ於テ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ一時入營ヲ
差止メ其ノ診斷證書ヲ添ヘ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ具申スヘシ

第四十一條 島司郡市長（東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長）ハ現役兵
及陸軍補充兵ハ戶籍抄本（海軍ニ在リテハ戶籍謄本）ヲ聯隊區司令官又ハ警
備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵ノ戶籍謄本ヲ各

隊長又ハ鎮守府兵事官ニ送付スヘシ其ノ戶籍ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ
前項ノ戶籍抄本ハ陸軍兵籍規則ニ依リ第二種兵籍ヲ調製スルニ必要ナル諸件
ヲ掲クルモノトス

第四十二條 條例第四十九條及本則第二十八條ニ當ル現役兵入營ノ異動ハ聯隊
區司令官又ハ警備隊司令官（條例第四十九條ノ異動ハ轉籍地ノ聯隊區司令官
又ハ警備隊司令官）ヨリ各隊長又ハ鎮守府兵事官ニ通知スヘシ

第四十三條 現役兵入營前徵集延期若クハ入營延期翌年同ト爲リタル者兵役免
除ト爲リタル者ノ名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司郡市長ニ送
附スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ尙ホ市長ヨリ區長ニ送附スヘシ

前項ノ名簿中入營延期翌年同ト爲リタル者ノ名簿ハ島司郡市長（東京市、京
都市、大阪市ニ在テハ區長）之ヲ徵集延期名簿ニ編入スヘシ

第四十四條 補充兵ニシテ未ダ教育ヲ終ラサル者他ノ徵募區ニ轉籍（抽籤後其
ノ年十一月三十日迄ニ係ルモノヲ包含ス）シタルトキハ新舊住地徵募區同種
第八類 徵兵事務條例施行細則

補充兵最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシムヘシ
第四十五條 前條ノ轉籍者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司
郡市長ニ通知スヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ尙ホ區長ニ通知ス
ヘシ

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令
官其ノ名簿ヲ添ヘ舊住地徵募區ノ同種補充兵最高ノ抽籤番號ヲ轉籍地ノ聯隊
區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第四十六條 現役兵入營前及補充兵ニシテ轉籍シタル者ノ現役兵證書、補充兵
證書ハ總テ轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ訂正スヘシ

第四十七條 現役兵證書、補充兵證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ更ニ下渡ヲ聯
隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ請求シ徵集延期證書、徵集猶豫證書及兵役免
除證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ更ニ下渡ヲ島司郡市長（東京市、京都市、
大阪市ニ在テハ區長）ニ請求スヘシ

第四十八條 條例第五十條ノ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ハ成年以上ノ
男子ニ限ル

第四十九條 條例第五十三條及第六十三條ニ依リ寄留地徵募區ニ於テ身體検査
ヲ受ケルコトヲ許可シタル旨通知ヲ受ケタル島司郡市長ハ其ノ壯丁名簿若ハ

前年ノ假決名簿ヲ直ニ寄留地ノ島司郡市長ニ送付スヘシ

身體検査若ハ抽籤終ルトキハ前項ノ名簿ニ検査ノ結果及抽籤番號ヲ記入シ之

ニ寄留地同兵種最高ノ番號ヲ添ヘ直ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ

本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送付スヘシ

第五十條 前條ノ名簿條例第三十一條ノ處分迄ニ到達セザルトキハ其ノ年ノ檢

査及抽籤ノ成績ニ依リ翌年假決若ハ終決ノ處分ヲ爲スヘシ

第五十二條 條例第五十一條ノ願書ハ附錄第八樣式ニ依リ身元證書ハ附錄第九

樣式ニ依リ合格證書ハ附錄第十樣式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第五十二條 他ノ徵募區ニ於テ身體検査及抽籤ヲ爲シタル者ノ徵集順序ヲ定メ

第八類 徵兵事務條例施行細則

ル爲ニハ本籍地寄留地兩徵募區同兵種ノ最高番號ヲ率トシ比例ヲ以テ本籍地同等番號ノ上位ニ列スルモノトス

第五十三條 現役兵ニシテ徵募年ノ十二月十五日以前ニ、補充兵ニシテ其教育

召集前ニ志願兵ニ採用セラレタルトキハ其ノ志願ニ應セシム但シ該志願ニ應

セサル者ハ現役兵ニ在リテハ條例第四十五條第三項ノ例ニ依リ翌年之ヲ徵集

シ補充兵ニ在リテハ補充兵役ヲ繼續セシム

聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ志願兵採用若ハ志願ニ應セサルコトノ通知

ヲ當該官衙學校長ヨリ受ケタル後前項ニ關スル取扱夫爲スモノトス

第五十四條 現役兵ニシテ一年志願兵ニ採用セラレタル者正當ノ事故ナク一年

志願兵トシテ所定ノ期日ニ入營セサルトキハ前條但書ノ規定ニ拘ラス聯隊區

司令官又ハ警備隊司令官直ニ徵集ノ手續ヲ爲スベシ

第五十五條 島司郡市長（東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長）ハ一年志

願兵出願者（二十歳未滿ノ者ヲ除ク）ノ人名ヲ調査シ條例第二十一條ノ諸名

簿ニ添附スベシ

第五十六條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ成ルベク條例第五十三條及第六

十三條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受ケタル者ノ名簿ヲ受領シタル後

條例第三十一條ノ處分ヲ爲スベシ

第五十七條 近衛師團及第七師團司令部ハ條例第十八條ノ配賦ニ基キ現役兵ヲ

入營スベキ隊號ヲ定メ之ヲ第二十三條ノ現役兵證書調製ニ差支ナキ様當該師

團司令部ニ通報スベシ但シ第七師團ニ在リテハ第三十七條第二項ノ入營期日

ヲモ通報スルモノトス

附則

第五十八條 第二條中明治二十八年勅令第二百二十六號第三條ニ當ル者ノ人名書

ハ明治二十九年ニ於テハ明治二十八年陸軍省令第三十號第三項ニ依リ作りタ

ル名簿ヲ以テ之ニ換フベシ

第五十九條 本則中町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長又ハ

第八類 徵兵事務條例施行細則

軍之標準へ未だ引揚不爲る者ハ、
(様式略ス)

●徴兵事務條例施行細則中北海道沖繩縣及大島八丈島小笠原島ニ施行シ難キ諸件

(明治三十三年十月十三日
陸軍省令第三十號)

徴兵事務條例施行細則中北海道沖繩縣及東京府管下大島八丈島小笠原島各徵募區ニ施行シ難キ諸件ハ當分左ノ諸條ニ依ル
第一條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項ニ當ル者ハ徴兵事務條例施行細則第二條ニ依ラズ壯丁名簿ヲ作ルヘシ

第二條 明治三十年勅令第二百五十八號ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ身體検査ヲ行ハズ(三十七年陸軍省令第八號ヲ以テ條中改正)

第三條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項及明治三十年勅令第二百

五十八號ニ依リ徵集免除徵集猶豫ニ屬スル者ニハ徴兵事務條例施行細則第九條ノ例ニ依リ徵集猶豫證書ヲ付與シ又ハ徵集免除ノ旨ヲ達スヘシ
其ノ徵集免除又ハ徵集猶豫願ヲ許可セサル者ニハ徴兵事務條例施行細則第十條ノ例ニ依リ裁決書ヲ付與スヘシ

第四條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第二項ノ資格ヲ失ヒタル者アルニキハ該隊長又ハ後備兵村監視ヨリ本籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ但シ其ノ資格ヲ失ヒタル者ノ内屯田下士兵卒ノ戸籍内ニ在ルモ兵村ノ業務ニ從事セザル者ニ付テハ其ノ事由ヲ詳記スヘシ

第五條 前條ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ異動壯丁名簿ヲ作り之ニ通知書ヲ添附シ町村長ハ其ノ年ノ壯丁名簿ト共ニ島司郡市長ニ差出シ島司郡市長ハ聯隊區徴兵署ニ提出スヘシ但シ町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキ壯丁名簿進達後抽籤前ニ在テハ直ニ抽籤後ニ在テハ翌年ノ壯丁名簿ト共ニ差出スヘシ

第六條 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條及明治三十年勅令第二百五十八號
第八類 徴兵事務條例施行細則中北海道沖繩縣大 六十九
島八丈島小笠原島ニ施行シ難キ諸件

第七號ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ町村長ニ於テ其ノ處分ヲ受ケタル翌年ヨリ徵集猶豫期限滿ツル迄毎年其ノ生業ノ狀況ヲ調査シ徵兵署開設迄ニ聯隊區徵兵官ニ報告スヘシ(三十七年陸軍省令第八號ヲ以テ條中改正)

第七條 沖繩警備隊區ニ於テ要員ヲ充スコト能ハサルトキハ警備隊區司令官ヨリ第六師團長ニ第六師團長ヨリハ之ヲ陸軍大臣ニ具狀スヘシ

第八條 徵兵事務條例補則第九條第三項ニ依リ補缺ヲ要スルトキハ該隊長又ハ鎮守府兵事官ヨリ之ヲ師團長ニ申請シ師團長ハ師管內該兵科第一補充兵ノ總員ヲ調査シ聯隊區ニ配賦シ聯隊區司令官ハ聯隊區內該兵科第一補充兵ノ總員ヲ調査シ之ヲ徵募區ニ配賦スヘシ但シ近衛兵ニ在リテハ近衛師團長ヨリ第六師團長ニ通知スヘシ(三十五年陸軍省令第八號三十七年同第八號ヲ以テ條中改正)

第九條 徵兵事務條例施行細則第二十五條ニ依ル第六師管徵兵表其一中沖繩警備隊區ヨリ第十二師團ニ徵集スル現役兵ノ人員ハ之ヲ朱書シ第六師團ニ徵集スル者ト區分スヘシ

スル者ト區分スヘシ

第十條 (三十七年陸軍省令第八號ヲ以テ削除)

第十一條 徵兵事務條例補則第十一條ノ引率吏員ハ現役兵交付ノ際徵兵事務條例第四十四條ノ入營延期願濟ノ者其ノ他事故不參ノ者ノ人名及事由ヲ各隊長近衛入營兵受領員若ハ鎮守府兵事官ニ通知シ又引率ノ際永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認ムル者アルトキハ其ノ診斷證書ヲ添ヘ警備隊區司令官ニ通報スヘシ(三十五年陸軍省令第八號三十七年同第八號ヲ以テ條中改正)

第十二條 徵兵事務條例施行細則中警備隊司令官ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在リテハ警備隊區司令官、郡長郡書記ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長同支廳ノ屬、市長市書記ノ職務ハ北海道及沖繩縣ニ在テハ區長區書記、町村長ノ職務ハ北海道沖繩縣及大島八丈島小笠原島ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

附則

第八類 徵兵事務條例施行細則中北海道沖繩縣大島八丈島小笠原島ニ施行シ難キ諸件 七十二

明治三十一年陸軍省令第三號ハ之ヲ廢止ス

七十二

●徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書ニ關スル規程

(明治三十六年十二月二十六日) 文部省令第三十九號

徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學生、生徒ニ在學證明書ヲ交付スルトキハ左ノ書式ニ據ルヘシ

番號	原籍
在學ノ學科及學年	氏名
入學ノ年月日	生年月日

徵兵事務條例第五十五條ニ依リ在學ヲ證明ス

學校所在地

何々學校長 氏名

第二條 學校長ハ在學證明書交付名簿ヲ調製シ前條ノ證明書ヲ交付スルトキハ證明書ノ番號ヲ該名簿ニ記入シ且證明書ト名簿トニ割印ヲナスベシ

第三條 卒業若ハ退學等ニ依リ第一條ノ證明書ヲ交付シタル學生、生徒ノ學籍ヲ除キタルトキハ學校長ハ其ノ除籍ノ事由及年月日ヲ十四日以内ニ原籍地ノ

市長(北海道、沖繩縣、東京市、京都市及大阪市ニ在リテハ區長)町村長(町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者)ニ通知スヘシ

附則

明治十八年文部省達第一號ハ之ヲ廢止ス

第八類 徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書ニ關スル規程 七十三

●陸軍一年志願兵

●陸軍一年志願兵條例

(明治三十七年三月二十八日 勅令第八十四號)

朕陸軍一年志願兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(陸軍大臣副署)

陸軍一年志願兵條例

- 第一條 徵兵令第十三條ニ依リ一年志願兵ト爲ル者ハ志願ノ際本籍ニ在ル師管内ノ軍隊ニ於テ服役セシムルコトアルヘシ
- 第二條 一年志願兵ノ兵科ハ本人ノ冀望ト軍事上ノ必要トニ依リ之ヲ定ム但シ騎兵科ハ本人ノ冀望ニ依ルモノトス
- 第三條 一年志願兵出願者ニシテ左ノ各號中第一號ニ該當スル者ハ主計生、第二號ニ該當スル者ハ軍醫生、第三號ニ該當スル者ハ藥劑生、第四號ニ該當スル者ハ獸醫生トシテ志願スルコトヲ得

一 專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ法律又ハ經濟ノ課程ヲ卒業シタ

合部ル者

二 醫術開業免狀ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者

三 藥劑師免狀ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者

四 獸醫開業免狀ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者

第四條 一年志願兵ハ營内ニ居住セシム但シ入營後六箇月ヲ經過シタル時ハ

聯隊長外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第五條 一年志願兵ニハ給料及旅費ヲ給セス

第六條 一年志願兵ニハ所屬隊ニ於テ糧食、被服、彈藥等ノ現品ヲ給シ兵器ヲ貸

與ス

騎兵科ノ者ニハ前項ノ外馬匹ヲ貸與ス

第七條 一年志願兵ハ服役ニ關スル費用ハ之ヲ前納セシム其ノ金額及納付ノ方

法ハ陸軍大臣之決定ニ

第八類 陸軍一年志願兵條例

前項ノ金額ハ前條ニ依リ支給シ又ハ貸與スルモノノ費用等ニ充テ不足アルト
キハ之ヲ追徴シ剩餘アルトキハ之ヲ還付ス

第八條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六年四箇月豫備役ニ、豫備役滿期後十箇年
後備役ニ服セシム但シ第二十七條及第二十八條ニ依リ豫備役ニ編入セラレタ
ル者ノ豫備役年期ハ現役期間ヲ通算シテ七年四箇月トス其三十七年勅令第二
百十四號ヲ以テ五箇年ヲ十箇年ニ改ム

第九條 一年志願兵タラムトスル者ハ本籍所在師管ノ師團長ニ願出テ身體検査
又ハ身體検査及學術試験ヲ受クヘシ但シ其ノ検査及試験ハ寄留地所在師管ニ
於テ之ヲ受クルコトヲ得

前項出願ノ期日手續並検査及試験ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十條 本籍所在師管ノ師團長ハ合格ノ者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不
合格ノ者ニハ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十一條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營前左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ

ハ其ノ認定證書ヲ返還セシム

一 傷疾又ハ疾病ニ依リ服役ニ堪ヘ難キトキ

二 陸海軍別兵籍ニ編入スヘキ諸生徒候補生等ヲ命セラレタルトキ

三 本人ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營シ難キトキ

第十二條 一年志願兵ノ入營日ハ毎年十二月一日トス但シ戰時又ハ事變ノ際其

ノ他必要ノ場合ニ於テ之ヲ變更スルコトアルベシ

第十三條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者傷疾疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ

依リ所定ノ期日ニ入營シ難キトキハ其ノ入營ヲ延期スルコトヲ得

第十四條 入營ヲ延期セラレタル者十二月三十一日迄ニ入營シ難キトキハ翌年

入營セシム

第十五條 前項ニ依リ翌年入營セシムヘキ者仍其ノ年ニ於テ入營シ難キトキハ一年志願

兵認定證書ヲ返還セシム

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ得ル者正當ノ事由ナクシテ所定ノ期日ニ入

第八類 陸軍一年志願兵條例

營セサルトキハ一年志願兵タルハ資格ヲ失フモノトス
第十六條 一年志願兵ノ教育ハ聯隊長其ノ責ニ任ス

第十七條 一年志願兵ハ入營後四箇月一般ノ兵卒ト同一ノ教育ヲ爲シ之ニ三等卒ヲ命シ二箇月以上通常教育ノ外特別ノ教育ヲ爲シ之ニ上等兵ヲ命シ其ノ材幹ヲ學術修得ノ成績トニ依リ下士及士官ノ勤務ヲ練習セシム其ノ成績優秀ナルトキハ伍長ノ階級ニ進ムルコトヲ得

第十八條 第三條第一號、第二號又ハ第三號ニ該當スル者ハ步兵隊ニ於テ、同條第四號ニ該當スル者ハ騎兵隊、砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ六箇月間前條ニ依リ教育ヲ爲シタル後上等兵ヲ命シ之ヲ主計生、軍醫生、藥劑生又ハ獸醫生ト爲シ各專門ニ關スル下士及士官ノ勤務ヲ練習セシム
主計生ハ師團經理部長、軍醫生及藥劑生ハ師團軍醫部長、獸醫生ハ師團獸醫部長師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ命ス

第二項ノ期間ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ四箇月ニ短縮スルコトヲ得

第十九條 專門勤務ニ關スル教育ハ主計生ニ在リテハ隊附高級主計、軍醫生ニ在リテハ隊附高級醫官、藥劑生ニ在リテハ衛戍病院長、獸醫生ニ在リテハ隊附高級獸醫官各其ノ責ニ任シ師團經理部長、師團軍醫部長、師團獸醫部長各其ノ教育ヲ監督ス

第二十條 專門勤務ヲ練習スル者ニシテ其ノ成績優秀ナルトキハ其ノ教育ヲ監督スル諸官ニ於テ主計生ハ三等計手ノ階級ニ、軍醫生藥劑生ハ三等看護長ノ階級ニ、獸醫生ハ三等蹄鐵工長ノ階級ニ進ムルコトヲ得但シ三等蹄鐵工長ノ階級ニ進ムルハ師團獸醫部長ノ意見ニ依リ聯隊長ニ於テスルモノトス

第二十一條 一年志願兵ハ戰時又ハ事變ニ際シ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ階級相當ノ給料ヲ給シ服役ニ關スル費用ハ之ヲ官費トス

第二十二條 一年志願兵ハ現役滿期前終末試験ヲ施行ス其ノ方法ハ師團長之ヲ第八類 陸軍一年志願兵條例 七十九

第二十三條

終末試験ヲ終リタルトキハ試験ノ成績ト平素ノ勤務トヲ參酌シ及
第者ニハ豫備役編入ノ際終末試験及第證書ヲ付與シ各兵科ノ者ハ軍曹ニ、主
計生ハ三等計生ニ任シ軍醫生及藥劑生ハ二等看護長ノ階級ニ、獸醫生ハ二等
蹄鐵工長ノ階級ニ進ム
終末試験及第證書ヲ付與セサル者ニシテ下士ノ技能アル者ハ豫備役編入ノ際
各兵科ノ者ハ伍長ニ、主計生ハ三等計生ニ、軍醫生及藥劑生ハ三等看護長ニ、
獸醫生ハ三等蹄鐵工長ニ任シ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ニシテ下士ノ
技能ナキ者ハ之ヲ免ス

第二項ニ依リ及第證書ヲ付與シ、下士ニ任シ下士ノ階級ニ進メ又ハ主計生、軍
醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免スルハ師團長ノ命ニ依リ主計生ニ在リテハ師團經
理部長、軍醫生及藥劑生ニ在リテハ師團軍醫部長其ノ他ニ在リテハ聯隊長之
ヲ爲スモソトス但シ獸醫生ヲ免スルハ師團獸醫部長ニ於テスルモノトス

第二十四條 一年志願兵ニシテ傷疾疾病等ニ因リ終末試験ヲ受ケサル者ハ現役

滿期後一箇年以内ニ於テ終末試験ヲ受ケルコトヲ得
前項ニ依リ終末試験ヲ受ケタル者ハ前條ノ例ニ依ル

第二十五條 前條ニ依リ終末試験ヲ受ケサル者ハ第二十三條第二項及第三項ニ
準シ伍長同相當官ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免ス

第二十六條 一年志願兵ニシテ左ノ各號ノニ該當スル者ハ第十七條及第十八
條ノ例ニ依ラス二等卒ト爲シ一般ノ兵卒ト同一ノ教育ヲ爲シ且必要ニ應シ現
役滿期ノ後毎年六十日間勤務演習ノ爲召集ス之ニ要スル費用ハ自辨トス

一 怠慢ニシテ勤務習得ノ見込ナキ者
二 軍紀ヲ紊リ、屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ見込ナキ者
第二十七條 一年志願兵中第十一條第三號ニ該當スル者アルトキハ師團長ハ聯
隊長ヲシテ其ノ現役ヲ免シ豫備役ニ編入セシム

第二十八條 一年志願兵中傷疾又ハ疾病ニ因リ服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ師
團長ハ之ヲ免シ豫備役ニ編入セシム

第八類 陸軍一年志願兵條例

團長ハ聯隊長ヲシテ現役ニ堪ヘサル者ハ豫備役ニ編入シ常備後備ノ役ニ堪ヘサル者ハ其役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘサル者ハ兵役ヲ免セシム

第二十九條 前二條ニ依リ豫備役ニ編入スル者ハ第二十三條第二項及第三項ニ準シ伍長同相當官ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免ス

第三十條 本條例ニ規定スルモノノ外一年志願兵ト爲リタル者ノ士官又ハ下士ノ任官ニ關シテハ陸軍補充條例、豫備後備ノ服役ニ關シテハ陸軍服役條例ノ規定ニ依ル

第三十一條 本條例中聯隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ其ノ隊長ニ該當ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際服役中ノ者翌年回トナリタル者及明治三十七年出願ニ係ル一年志願兵ノ服役スヘキ兵科及衛戍地ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

明治三十七年一年志願兵ヲ出願シタル者ノ身體検査及學術試驗並認定證書ノ付與ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際既ニ官費服役ヲ許可シタル者ハ其ノ服役ノ費用ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際既ニ現役ヲ終リ又ハ免セラレタル者ノ服役ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

臺灣總督府國語學校土語科ノ卒業證書ヲ有スル者ハ當分臺灣ニ於テ身體検査ヲ受ケ臺灣守備歩兵隊ニ於テ服役スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本條例中師團長トアルハ臺灣守備混成旅團長ニ該當ス但シ第九條ノ願書ハ本籍所在師管ノ師團長ニ差出スヘキモノトス

●陸軍一年志願兵條例施行細則

(明治三十七年三月二十九日)
陸軍省令第十三號

第八類 陸軍一年志願兵條例施行細則

陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通改正ス

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條 一年志願兵ノ被服ハ左ノ區別ニ依リ取扱フヘシ

一 第一種帽、前立、第二種帽、絨衣袴、略衣袴、夏衣袴、日覆、外套、脚
絆、軍隊手牒ハ新品ヲ給シ其ノ代價ヲ納付セシム

二 背囊、被服手入具、飲盒、水筒、寢具ハ貯藏品ヲ貸與シ其ノ補修費ヲ納
付セシム

三 第一號ノ品種ハ新品ヲ支給スルノ外必要ニ應シ貯藏品ヲ貸與シ其ノ補修
費ヲ納付セシム

四 前各號ノ外下士卒給與品ニ限リ必要ニ應シ其ノ代價ヲ徴シ特ニ支給スル
コトヲ得

第二條 糧食及馬糧ハ行軍又ハ演習中ト雖官給スルコトナシ

第三條 一年志願兵ハ左ノ金額ヲ入營スル月ノ前月十五日迄ニ所屬隊ニ納付ス

ヘシ但シ第三號ハ騎兵科ノ者ニ限ル

一 被服費、彈藥費、兵器修理費

金四十五圓

二 糧食費

金六十圓

三 馬糧費、裝蹄費、別毛費、馬藥費

金百五十六圓

第四條 一年志願兵ヲ出願スル者ハ其ノ願書(附錄第一様式)ニ戶籍謄本、履歷
書(附錄第二様式)ヲ添ヘ本籍地ノ市町村長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經

テ一月三十一日迄ニ師團長ニ差出スヘシ

前項ノ願書ニハ徵兵令第十三條ノ學校卒業者ニ在リテハ學校長ノ卒業證明書

戶主ニ非ラサル者ハ戶主、未成年者ニ在リテハ親權者ノ服役承認書(附錄第

三様式)ヲ添付スヘシ

市町村長ハ志願者ノ身元資産及犯罪ノ有無等ヲ調査シ證明書(附錄第四様式)

ヲ製シ又他師團ニ全戸寄留ノ者ニ在リテハ其ノ師管名及寄留ノ年月日ヲ付記

シ願書ニ添付スヘシ

第八類 陸軍一年志願兵條例施行細則

第五條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其ノ年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證明書ニ代フルコトヲ得但シ卒業ノ上ハ直ニ學校長ノ卒業證明書ヲ添ヘ師團長ニ届出ツヘシ

第六條 師團長ハ志願者中學術試験ヲ要スル者ノ人員ヲ検査ヲ爲スヘキ師管ニ區分シ之ヲ二月二十日迄ニ陸軍將校生徒試験常置委員長ニ通知シ他ノ師管ニ於テ検査ヲ受ケムトスル者ノ人名及必要ノ事項ヲ當該師管ノ師團長ニ三月一日迄ニ通知スヘシ

第七條 陸軍將校生徒試験常置委員長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ試験問題ヲ師團長ニ送付スヘシ

第八條 師團長ハ身體検査ノ時日ヲ定メ地方長官ニ通知シ地方長官ハ志願者ヲ検査場ニ出頭セシムヘシ

第九條 師團長ハ軍醫ヲシテ志願者ノ身體検査ヲ行ハシメ尙身體検査合格者中

學術試験ヲ要スル者ハ部下ノ將校同相當官ニ試験委員ヲ命シ其ノ試験ヲ行ハシム

學術試験ヲ受クヘキ者ハ新ニ單身脱帽ニテ撮影シタル寫眞紙(手札形)ノ裏面ニ族籍氏名ヲ自書シ身體検査ノ際軍醫ニ差出スヘシ(三十八年陸軍省令第四號ヲ以テ本項中改正)

第十條 一年志願兵出願者ノ検査場及學術試験期日ハ陸軍召募規則第二十一條及第二十二條ニ同シ

第十一條 學術試験ヲ要セサル者ハ検査場ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ三月一日迄ニ原検査場所在師管ノ師團長ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

第十二條 師團長前條ノ願ヲ許可シタル場合ニ於テ其ノ検査場他ノ師管内ナルトキハ三月二十日迄ニ當該師團長ニ通知スヘシ

第十三條 師團長ハ検査ヲ終リタルトキハ五月十日迄ニ合格人員表(附錄第七様式)ヲ調製シ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ他ノ師管在籍者ノ成績ハ同日迄ニ

第八類 陸軍一年志願兵條例施行細則

受檢者本籍所在師管ノ師團長ニモ通知スヘシ

第十四條 陸軍大臣ハ前條ノ合格人員表ニ依リ一年志願兵配當表ヲ作り師團長ニ通達ス

師團長前項ノ通達ヲ受ケタルトキハ一年志願兵認定證書(附錄第五樣式)ヲ本人ニ付與スヘシ但シ第五條ニ依リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證明書ニ代用スル者ニ在リテハ卒業ノ届出ヲ爲シタル後之ヲ付與スヘキモノトス

第十五條 他ノ師管ニ於テ服役スヘキ者ノ認定證書ハ本籍所在師管ノ師團長之ヲ付與シ其ノ人名書ニ體格檢查表、願書其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ速ニ當該師團長ニ送付スヘシ

第十六條 師團長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ更ニ入營命令(附錄第六樣式)ヲ作り本人ニ送付スヘシ

第十七條 師團長ハ其ノ師管内ニ於テ服役スヘキ者ノ隊籍ヲ定ムルニハ志願者ノ冀望及素養並軍事上ノ必要ヲ斟酌シ師管内ノ各兵科毎ニ各隊成ルヘク平等

ニ配賦スヘシ但シ主計生タラムコトヲ冀望スル者ハ師團司令部所在地ノ歩兵隊ニ配賦スルモノトス

第十八條 師團長ハ其ノ師管内ノ軍隊ニ於テ服役スヘキ者ノ人名書ニ其ノ體格檢查表、願書其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ入營前聯隊長ニ下付スヘシ但シ近衛師團ニ於テ服役スヘキ者ニ關スル書類ハ第一師團長ヨリ近衛師團長ニ送付シ同師團長ニ於テ下付ノ手續ヲ爲スモノトス

第十九條 一年志願兵出願後入營迄ノ間ニ轉籍、轉住、氏名變更、犯罪、死亡其ノ他願書及添付書類ニ記載セル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ本人又ハ親族ヨリ認定證書付與前ニ在リテハ本籍所在師管ノ師團長ニ、認定證書付與後ニ在リテハ服役スヘキ師團ノ師團長ニ届出ツヘシ

第二十條 條例第十一條第一號ニ該當スルトキハ在職軍醫ノ診斷證書(軍醫有ラサル地ニ在リテハ醫師ノ病況書)同第二號ニ該當スルトキハ學校又ハ官廳等ノ證明書、第三號ニ該當スルトキハ近鄰戶主二名ノ保證書ヲ添付シ本籍地

第八類 陸軍一年志願兵條例施行細則

ノ市町村長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ師團ノ師團長ニ届出ツヘシ

島司、郡市町村長ハ前項ノ病況書又ハ保證書ニ記載セル事實ヲ審覈シ市町村長ニ在リテハ狀況書島司、郡長ニ在リテハ意見書ヲ作り届書ト共ニ聯隊區司令官ニ送付シ聯隊區司令官ハ該狀況書及意見書ニ尙其ノ意見ヲ添付シ師團長ニ進達スヘシ

第二十一條 條例第十三條ニ依リ入營ノ延期ヲ願出テムトスルトキハ願書ニ證據書類ヲ添ヘ本籍地市町村長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ差出スヘシ

市町村長ハ前項ノ願書ニ奥書證印ヲ爲スヘキモノトス

第二十二條 師團長一年志願兵入營前認定證書ヲ返還セシメムトスルトキハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ其ノ旨ヲ通知シ聯隊區司令官ハ本人ヘ其ノ返還ヲ命スヘシ

第二十三條 聯隊長條例第二十八條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シ又ハ兵役ヲ免シタルトキハ之ヲ本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十四條 聯隊長ハ一年志願兵中所定ノ期日ニ入營セサル者アルトキハ之ヲ師團長ニ報告シ二十歳以上ノ者ニ在リテハ尙本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十五條 師團長ハ一年志願兵人員表（附錄第八樣式）及一年志願兵終末試驗成績表（附錄第九樣式）ヲ毎年一月三十一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二十六條 一年志願兵終末試驗及第證書（附錄第十樣式）ハ各部隊ニ於テ調製スルモノトス

第二十七條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營シタルトキ又ハ翌年同ト爲リタルトキハ十四日以内ニ本籍地ニ市町村長ニ届出ツヘシ但シ十一月三十日迄ニ滿二十歳ニ達セサル者ハ之ヲ要セス

第二十八條 一年志願兵ニシテ條例第十一條第三號ニ該當スルトキハ聯隊長ニ

第八類 陸軍一年志願兵條例施行細則

届出ツヘシ此ノ場合ニ在リテハ第二十條ヲ準用ス

第二十九條 本則中聯隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ該隊長、聯隊區司令官トアルハ警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、島司又ハ郡長トアルハ北海道ニ在リテハ支廳長又ハ區長、沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在リテハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、市長トアルハ東京、京都、大阪ノ三市ニ在リテハ區長、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者ニ該當ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際入營延期又ハ翌年回ト爲リタル者及明治三十七年志願ニ係ル一年志願兵ニシテ舊一年志願兵條例施行細則ノ規定ヲ適用スヘキモノハ從前ノ規定ニ依ル

明治三十七年志願ニ係ル一年志願兵中條例第三條第一號ニ該當スル者主計生々

ムラトスルトキハ證明書類ヲ添ヘ入營一箇月前迄ニ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ願出ツヘシ

前項ノ願ヲ許可セラレタル者ハ師團司令部所在地ノ歩兵隊ニ於テ服役セシム條例附則ニ依リ臺灣ニ於テ服役スル者ニ關シテハ第五條第九條第十一條第十二條第十八條乃至第二十條第二十二條第二十四條及第二十五條中師團長トアルハ臺灣守備混成旅團長ニ該當シ、其ノ被服ハ從前ノ規定ニ依リ、第四條ノ願書其ノ他ノ書類ハ本籍所在師營ノ師團長ヨリ臺灣守備混成旅團長ニ送付シ、検査ハ臺灣守備混成旅團長適宜當該司令部所在地ニ召集シテ之ヲ行ヒ、認定證書ハ検査終了後臺灣守備混成旅團長ニ於テ適宜之ヲ付與シ、第二十一條ノ書類ハ直接臺灣守備混成旅團長ニ差出スモノトス

第一様式

一年志願兵服役願

某 儀

第八類 陸軍一年志願兵條例施行細則

徵兵令第十三條ニ依リ服役中ニ關スル費用全額ヲ自辨シ一年志願兵トシテ服役致度候間御認可相成度別紙所要書類相添此段奉願候也

追テ一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勤務演習ノ爲召集セラレル場合ニ於テハ之ニ要スル費用モ自辨可致候也

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地(士族)(平民)
寄留地 府(縣)郡(市)町(村)番地

年月日

氏

名印

年月日生

第何師團長爵氏名殿

追テ左ノ通希望致候也

一 受驗場 何 地

二 冀望兵科

第一何兵

(主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生)

第二何兵

(冀望者ハ其ノ旨ヲ記スヘシ)

受驗場ハ本籍地師管内又ハ寄留地師管内ニ限ル但シ臺灣ニ於テ服役セムト

スル者ハ臺灣守備混成旅團司令部所在地トス

第二様式

履 歴 書

一何年月日何學校へ入學何年月日同校卒業

一何年月日何所ニ於テ何何研究

一何年月日何ニ從事ス

一一年志願兵出願ニ關スル件左ノ如シ

一未タ出願セシコトナシ

一何年何師管ニ於テ何何ノ爲不採用

一何年一年志願兵認定證書ヲ受領セシモ何何ノ爲服役セス

一何年月日何ニ依リ賞(罰)等

(右ノ外履歴ニ關スル事項ハ悉ク記載スヘシ)

右之通相違無之候也

第八類 陸軍一年志願兵條例施行細則

第三様式

一年志願兵服役承認書

年月日

九十六 氏 名 印

氏 名

年月日生

右者一年志願兵トシテ服役ノ儀承認致候就テハ服役並一年志願兵條例第二十
六條ニ依リ勤務演習ニ要スル費用ハ無相違上納可爲致候也

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地

寄留地 府(縣)郡(市)町(村)番地

戸主

氏 名 印

年月日

二十歳未満ノ志願者ニ在リテハ戸主及親權ヲ行フ者ノ連署ヲ要ス此ノ場合
ニハ氏名ノ上ニ「親權者」ト記載スヘシ

第四様式

身元證明書

氏 名

一賞罰ニ關スル事項ハ履歴書ノ通

一月主或ハ本人何種公債證書或ハ株券金額何千何百圓ヲ所有スル等

一月主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受クル給料何千何百圓等

一何々ノ所得年額何千何百圓等

右相違無之ニ付一年志願兵服役中ノ費用金額ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス

年月日

府縣市町村長 氏 名 印

(第五様式以下略ス)

●試補及判任官見習並非職休職官吏ニシテ一年志

願兵トナル者服役ノ件 (明治二十三年三月二十七日
勅令第六十二號)

第八類 試補及判任官見習並非職休官吏ニシテ一 九十七

年志願兵トナル者服役ノ件

朕試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者服役ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者ハ其儘服役スルコトヲ得

但有給者ニハ俸給ヲ給セス試補及判任官見習ニ在テハ服役時日ヲ實務練習ノ期限ニ算入セス

●陸軍六週間現役兵

●陸軍六週間現役兵條例 (明治二十八年十月四日 勅令第四百四十一號)

朕陸軍六週間現役兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍六週間現役兵條例

第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキ者ハ教職ニ就キタル年若クハ其ノ翌年ニ於テ其ノ居住地師管内ノ歩兵隊(警備隊ヲ置

ク島嶼ニ在テハ警備隊、臺灣ニ在テハ最寄ノ歩兵隊)ニ編入シ服役セシム(三十二年勅令第百十五號ヲ以テ分註改正)

第二條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月一日(臺灣ニ在テハ十月一日)トス但疾病其ノ他ノ事故ニ由リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キ者ハ翌年徵集ス(同上ヲ以テ分註追加)

戰時若クハ事變ニ際シテハ其ノ徵集ヲ延ハスコトアルヘシ

第三條 現役服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス

第四條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長(獨立大隊ニ在テハ隊長警備隊ニ在テハ司令官以下之ニ倣フ)其ノ責ニ任ス

第五條 六週間現役兵中勤務勳品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アル者ニハ聯隊長其ノ成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長(臺灣ニ在テハ旅團長)ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス(三十二年勅令第百十五號ヲ以テ分註改正)

第八類 陸軍六週間現役兵役條例

第六條 六週間現役兵ノ身體検査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵検査ト同時ニ之ヲ行フ徵集ニ適セサル者ハ徵兵検査規則ニ照シ處分ス
北海道臺灣及沖繩縣ニ在ル身體検査ニ關スル規程ハ陸軍大臣別ニ之ヲ定ム
(同上ヲ以テ「臺灣」ノ二字ヲ加フ)

第七條 検査往復旅費及入營旅費ハ官給ス

附則

第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備歩兵隊ヲ置ク迄ハ第二師管ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム

第九條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●陸軍六週間現役兵條例施行細則

(明治三十年四月五日 陸軍省令第九號)

三十一年陸軍省令第四號三十二年同第九號ヲ以テ本令中改正

陸軍六週間現役兵條例施行細則左ノ通改正ス

陸軍六週間現役兵條例施行細則

第一條 六週間現役兵ノ身體検査ハ教職ニ就キタル年居住地所在ノ聯隊區内又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但其ノ年ノ入營期日ニ切迫シ若クハ入營期日後教職下ナリタル者ハ翌年廻下ス

第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り身體検査ニ先タチ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官(沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官以下同シ)ニ送付シ検査ノ手續ヲ協議スヘシ但官立小學校ノ教職モ亦本文同様該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ

第三條 聯隊區司令官警備隊司令官ハ六週間現役兵ノ身體検査ニ關シテハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ附錄第一様式ノ合格證書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團長ニ差出シ且其ノ成績ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ

其ノ徵集ニ適セサル者ハ徵集延期徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集延期

第八類 陸軍六週間現役兵條例施行細則

期名簿ヲ北海道廳又ハ府縣廳ニ送付シ合格者並ニ徵集延期者ノ人名書徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ本籍所管ノ島司郡市長（北海道ニ在テハ北海道廳支廳長、東京市、京都市、大阪市及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長以下同シ）ニ送付スヘシ

第四條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ

第五條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師團長地方官協議ノ上時宜ニ依リ教職ニ就クヘキ年身體検査ヲ爲シ又北海道ニ在テハ居住地所在ノ聯隊區外ニ於テ身體検査ヲ爲スロトヲ得

第六條 身體検査後入營前教職ヲ罷メタル者アルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令部ニ通報スヘシ

第七條 臺灣ニ在ル者ノ身體検査ハ左ノ諸項ニ依リ施行スヘシ

- 一 總督府ニ於テハ身體検査ヲ受クヘキ者ヲ調査シ徵兵事務條例施行細則第一樣式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り最寄ノ步兵隊ニ送付シ身體検査ヲ

施行セシムヘシ

二 步兵隊長ハ第三條第一項ニ準シ身體検査又徵否ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ合格證書ヲ付與シ合格者及徵集延期ニ屬スル者ノ名簿ヲ總督府ニ差出シ總督府ニ於テハ第四條ニ準シ合格者ヲ各步兵隊ニ配賦スヘシ

三 步兵隊長ハ合格者及徵集延期ニ屬スヘキ者ノ人名書若クハ徵集ニ適セサル者ノ名簿ヲ添へ本籍所管ノ聯隊區又ハ警備隊區徵兵官ニ通知シ該徵兵官ハ其徵集ニ適セサルモノノ處分ヲ爲スヘシ

第八條 六週間現役兵退營スルトキハ聯隊長（獨立大隊ニ在テハ其ノ隊長警備隊ニ在テハ該司令官以下同シ）ハ該名簿ヲ本籍所管ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官警備隊司令官ハ之ヲ島司郡市長ニ送付スヘシ

條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長其ノ旨ヲ名簿ニ記載シ其ノ國民軍幹部適任證書ハ附錄第二樣式ニ準シ調製スヘシ

第八類 陸軍六週間現役兵條例施行細則

第九條 國民軍幹部適任證書ヲ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家
 資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ證
 書ヲ返還セシム

第十條 前諸條ニ掲ケルモノノ外ハ師團長及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定
 ヲ臺灣ニ在テハ臺灣總督之ヲ定ムヘシ

附則

明治三十年ニ於テ徵募スル六週間現役兵ノ身體検査ハ聯隊區司令部若クハ聯隊
 區内便宜ノ地ニ於テ施行スルコトヲ得

沖繩警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス其以前ニ在テ警備
 隊區司令官ノ職務ハ聯隊區司令官之ヲ行フ

(第一第二樣式略ス)

●國民軍

●國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者及國民軍編

入志願者ニ關スル件

(明治三十七年十二月五日
 勅令第二百三十三號)

朕國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者及國民軍編入志願者ニ關スル件ヲ裁可シ
 茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 國民兵役ニ在ル者ハ主トシテ國民軍ノ要員ニ充ツ

第二條 左ニ掲ケル者ハ志願ニ依リ國民軍ニ編入スルコトヲ得

一 退役陸軍將校、同相當官、准士官ニシテ國民兵役ニ在ラサル者

二 元陸軍下士、上等兵及之ト同等階級ノ者ニシテ國民兵役ニ在ラサル者

第三條 師團長ハ國民兵役ニ在ル者ニ對シ國民軍ノ要員ヲ補充スル爲補充召集
 ナ行ヒ且必要ニ應シ臨時召集ヲ行フコトヲ得其ノ召集ノ手續ハ陸軍召集條例

第八類 國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者及國 百五
 民軍編入志願者ニ關スル件

中國民兵召集ノ例ニ依ル

前項ニ依リ臨時召集ヲ行フ場合ニハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ時機切迫シテ命ヲ請フノ途ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 國民兵役ニ在リテ召集セラレタル退役將校、同相當官、准士官又ハ第二條第一號ニ該當スル者ハ部隊編入ノ後必要ニ應シ拔擢進級セシムルコトヲ得但シ其ノ役種ヲ變スルコトナシ

第五條 國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者及第二條第二號ニ該當スル者ノ中下士タリシ者ハ部隊編入ノ際前官等相當ノ下士ニ任シ必要ニ應シ拔擢進級セシム

第六條 國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者及第二條第二號ニ該當スル者ノ中上等兵又ハ之ト同等階級ノ者ハ部隊編入ノ後必要ニ應シ下士ニ任スルコトヲ得

第七條 前三條ノ場合ニ於テ士官以上ノ任官ハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權

ル長官ヨリ陸軍大臣ニ稟申シ准士官以下ノ任官ハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ得テ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官之ヲ行フ

第八條 國民兵ノ召集解除ニ關シテハ陸軍召集條例中充員召集ノ解除ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者又ハ第二條ニ該當スル者ニシテ准士官以上ニ進級シタル者ハ退役トシ下士ニ任セラレタル者ハ召集解除又ハ除隊ノ際其ノ官ヲ免セラレタルモノトス

第十條 陸軍召集條例第二條ニ依リ國民兵召集ヲ行ヒタル司令官師團長ニ非サルトキハ國民兵補充召集臨時召集及准士官以下ノ任官ニ付テハ師團長ト同一ノ權ヲ有ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國民軍條例ハ之ヲ廢止ス

第八類 國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者及國民軍編入志願者ニ關スル件 百七

●國民軍編入志願者ノ願出規程

(明治二十九年十二月五日)
陸軍省令第二十五號

明治三十七年勅令第二百三十三號ニ依リ國民軍編入志願者ノ願出ニ關スル規程左ノ通定ム(三十三年陸軍省令第十號三十七年同第三十號ヲ以テ本令中改正)

- 一 國民兵役ニ在ラサル退役陸軍將校同相當官准士官及元陸軍下士上等兵並上等兵ト同等階級ノ者ニシテ國民軍編入志願ノ者ハ編入年數ヲ定メテ九月三十日迄ニ願出ヘシ又數次此ノ願出ヲ爲スコトヲ得
- 二 退役陸軍將校同相當官准士官ニ在テハ町村長郡長又ハ市長及本籍地所管聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ師團長ニ願出ヘシ
- 三 元陸軍下士上等兵及上等兵ト同等階級ノ者ニ在テハ町村長郡長又ハ市長ヲ經テ本籍地所管聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ願出ヘシ

四 前二項ノ願書ニハ住所生年月日及將校同相當官ニ在テハ元職、元下士ニ在テハ元官元職、元上等兵及上等兵ト同等階級ノ者ニ在テハ各其ノ等級

ヲ記スヘシ

五 第二項又ハ第三項ニ依リ願出ル者アルトキハ師團長又ハ聯隊區司令官若クハ警備隊司令官ニ於テ所要ノ調査ヲ爲シ適當ト認ムルモノハ編入期日ヲ指定シテ之ヲ許可シ其ノ名簿ヲ作り當該司令部ニ備フヘシ

六 本令中郡長トアルハ島司、町村長トアルハ戶長及之ニ準スヘキ者ヲ包含シ市長トアルハ東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區長ニ該當ス

●補充兵役國民兵役ニ在ル者及國民軍編入志願者

ニ關スル件 (明治二十八年三月二十七日)
法律第二十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル補充兵役國民兵役ニ在ル者及國民軍編入志願者ニ關

第八條

國民軍編入志願者ノ願出規程 補充兵役 百九
國民兵役ニ在ル者及國民軍編入志願者ニ
關スル件 國民兵役ニ在ル者ノ服役及召
集ニ關スル件

スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
補充兵役、國民兵役ニ在ル者ニシテ召集中ノ者及志願ニ依リ國民軍ニ編入中ノ者ニハ豫備、後備ノ軍籍ニ在リテ召集中ノ者ニ適用スヘキ法律ノ規定ヲ適用ス其ノ召集ニ關スル罰例ハ徵兵徵集ニ關スル例ニ依ル

●國民兵役ニ在ル者ノ服役及召集ニ關スル件

(明治三十八年四月二十日)
勅令第五百五十三號

朕國民兵役ニ在ル者ノ服役及召集ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 國民兵役ニ在リテ左ニ掲グル者ニ付其ノ服役ニ關シ陸軍大臣ハ補充兵ノ服役ニ準シ必要ノ規定ヲ設クルコトヲ得

- 一 第一國民兵役ニ在ル者
- 二 六週間陸軍現役ヲ終リ國民兵役ニ編入セラレタル者
- 三 第二補充兵役ヲ終リ國民兵役ニ編入セラレタル者

四 所要ノ兵員ニ超過スル爲國民兵役ニ編入セラレタル者

陸軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ國民兵役ニ在リテ前項ニ掲ケサル者ノ服役ニ關シ補充兵ノ服役ニ準シ必要ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二條 國民兵役ニ在ル者ノ召集ニハ召集令狀ヲ用井陸軍召集條例中充員召集及補充召集ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得但シ臨時召集ニ在リテハ召集及其ノ解除ノ時期ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●身體検査

●徵兵検査規則

(明治二十五年三月十八日)
陸軍省令第三號

明治二十二年(三月)陸軍省令第二號徵兵検査規則左ノ通改ム

徵兵検査規則

第八類 徵兵検査規則

第一條 徵兵検査ハ徵兵令ニ據リ兵役ニ服スヘキモノノ體格ヲ検査シ其適否ヲ定ムルモノトス

此検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 左ノ疾病畸形ノ者ハ不合格トス（三十五年陸軍省令第九號ヲ以テ本項中改正）

- 一 惡性腫瘍
- 二 骨軟化、佝僂病
- 三 象皮腫、癩
- 四 動脈瘤
- 五 癩癩
- 六 白癩
- 七 癲狂
- 八 盲

- 九 耳殼若クハ鼻ノ全缺スルモノ
- 十 聾
- 十一 啞
- 十二 唇、齒牙、口内ノ疾病ニシテ管能ニ大ナル妨アルモノ
- 十三 食道狹窄
- 十四 脊梁、骨盤ノ畸形ニシテ運動ニ大ナル妨アルモノ
- 十五 歇兒尼亞
- 十六 關節畸形
- 十七 習癖脱臼
- 十八 支肢ノ短縮、彎曲
- 十九 指節ノ強剛ニシテ把握ニ大ナル妨アルモノ
- 二十 拇指若クハ示指若クハ二指以上ヲ失シタルモノ
- 二十一 蹠足

第八類 徵兵検査規則

二十二 第一趾ヲ失シタルモノ若クハ三趾以上ヲ失シタルモノ
前項ノ疾病畸形中輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トシテ爾餘ノ疾病畸形
ト雖モ服役シ得ヘカラサルモノハ不合格トス

第三條 徵兵體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ（三十八年陸軍省令第五號ヲ
以テ條中改正）

- 一 甲種 身長四尺九寸以上ニシテ身體強健ナルモノ
 - 二 乙種 身長四尺九寸以上ニシテ身體甲種ニ亞クモノ
 - 三 丙種 身長四尺九寸以上ニシテ身體乙種ニ亞クモノ及身長五尺未滿四尺
八寸以上ニシテ丁種戊種ニ當ラルモノ
 - 四 丁種 第二條ニ當ルモノ及身長四尺八寸ニ滿タサルモノ
 - 五 戊種 徵兵令第二十條第一項第二項ニ當ルモノ
- 第四條 第三條ノ甲種乙種丙種ヲ合格トシ其甲種乙種ハ現役ニ徵スヘキモノ丙
種ハ國民兵役ニ置クモノトシ丁種ヲ不合格戊種ヲ徵集延期トス

●陸軍身體檢查手續（明治三十二年三月二十二日）
（陸軍省第二十六號達）

達陸軍身體檢查手續左ノ通定ム

陸軍身體檢查手續

第一章 通則

- 第一項 身體檢查ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ
- 一 身長測定
- 二 視力検査
- 三 言語、精神、聽官ノ検査
- 四 一般構造検査
- 五 關節運動検査
- 六 各部検査
- 第二項 身長ヲ測定スルニハ名簿ニ照シテ其ノ氏名ヲ問ヒ衣服ヲ脱セシメ（眼

第八類 陸軍身體檢查手續